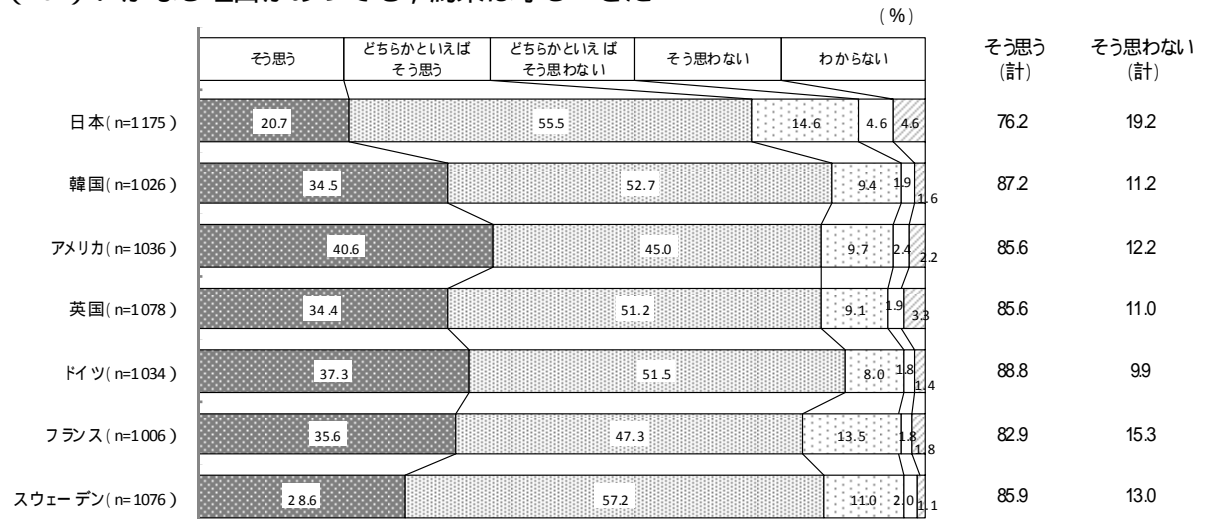
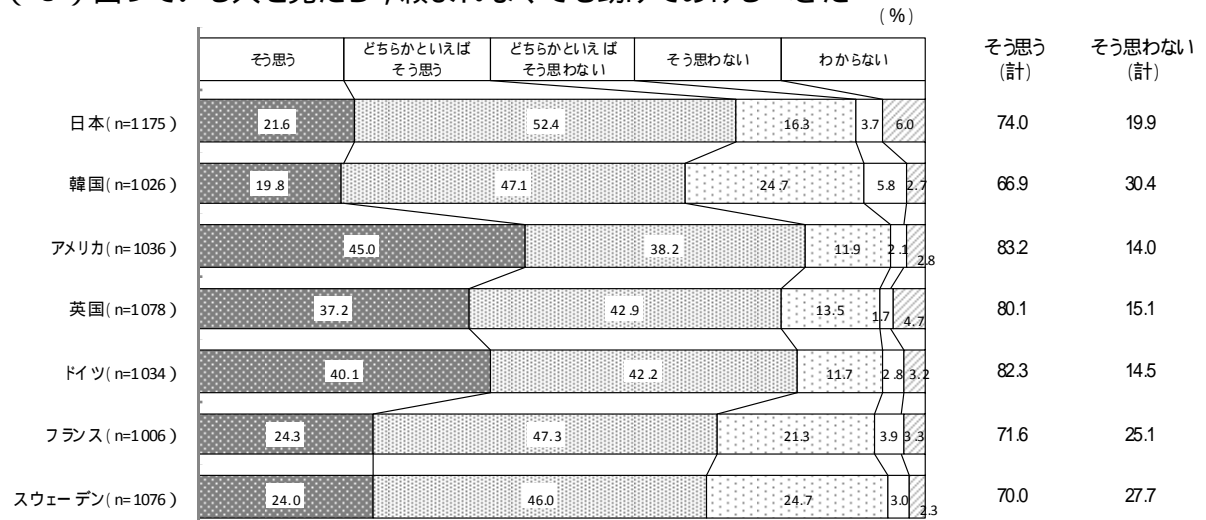


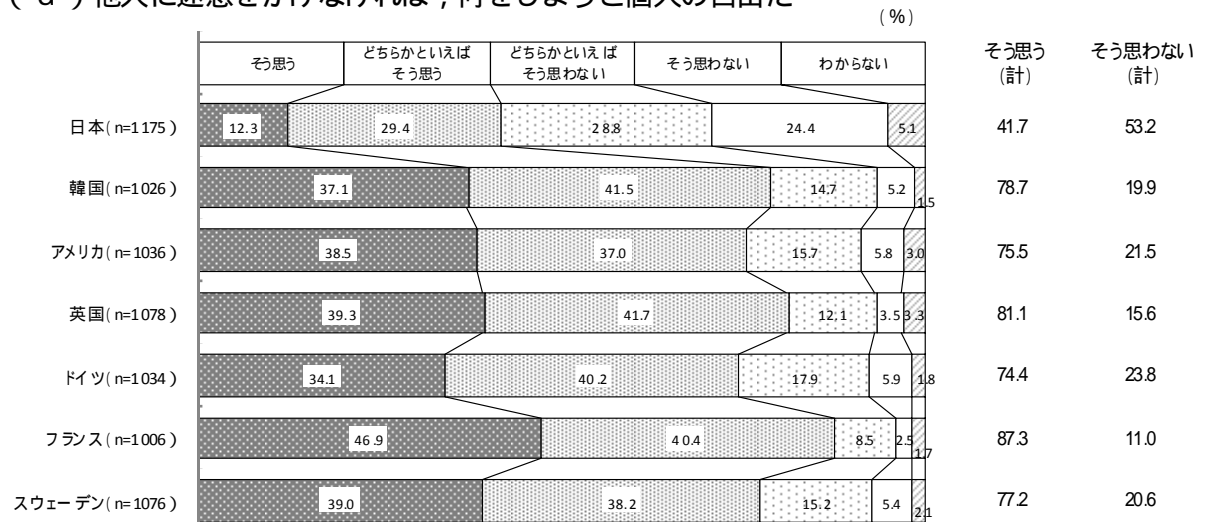
(b) いかなる理由があっても、約束は守るべきだ



(c) 困っている人を見たら、頼まれなくても助けてあげるべきだ



(d) 他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由だ

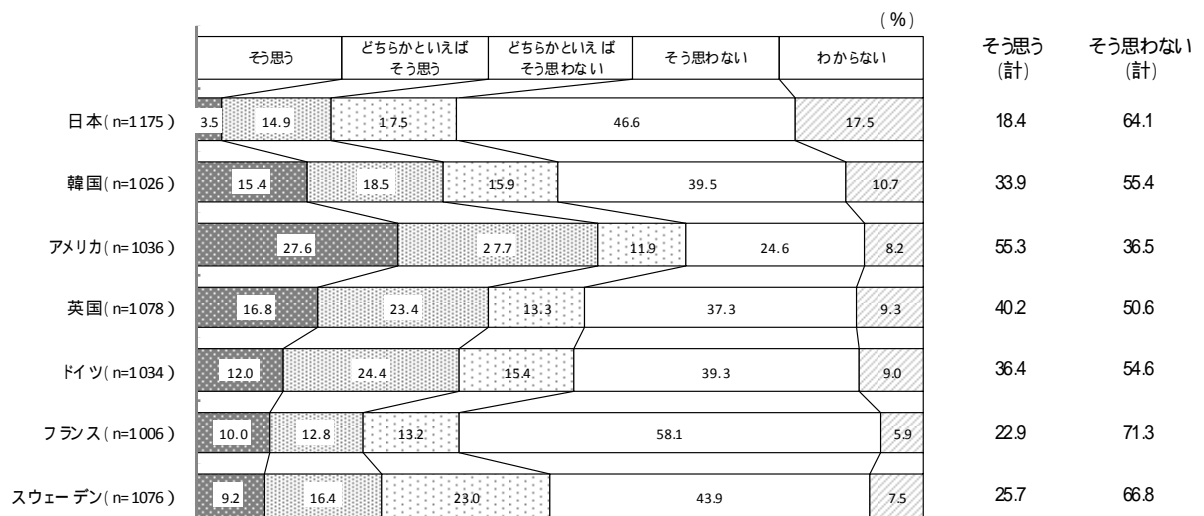


5 宗教観

Q10 あなたにとって宗教は、日々の暮らしのなかで、心の支えや態度・行動のよりどころになると感じますか。(回答は1つ)

日本の若者に、宗教が日々の暮らしのなかで心の支えや態度・行動のよりどころになると思うか聞いたところ、『そう思う』と回答したのは**18.4%**（「そう思う」**3.5%**＋「どちらかといえばそう思う」**14.9%**）である。

7か国比較で見ると、『そう思う』の割合が最も高いのはアメリカ（**55.3%**）で、以下、英国（**40.2%**）、ドイツ（**36.4%**）、韓国（**33.9%**）、スウェーデン（**25.7%**）、フランス（**22.9%**）となっている。なお、フランスでは、「そう思わない」が**58.1%**と半数以上を占めている。



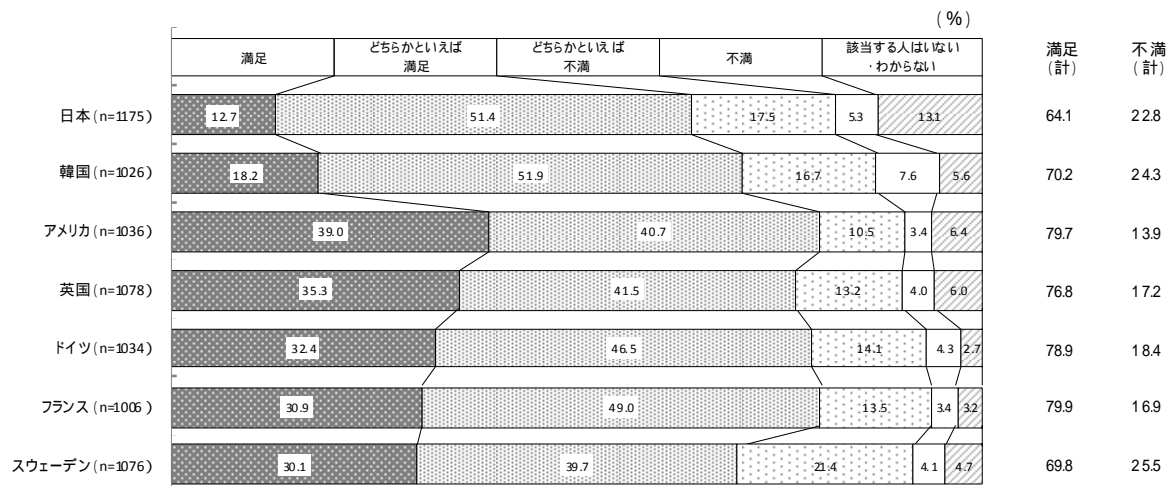
6 友人関係

(1) 友人

Q11 あなたは、友人との関係に満足を感じていますか、それとも不満を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。(回答は1つ)

友人関係の満足感について、日本の若者は **64.1%**が『満足』（「満足」**12.7%**＋「どちらかといえば満足」**51.4%**）と回答している。

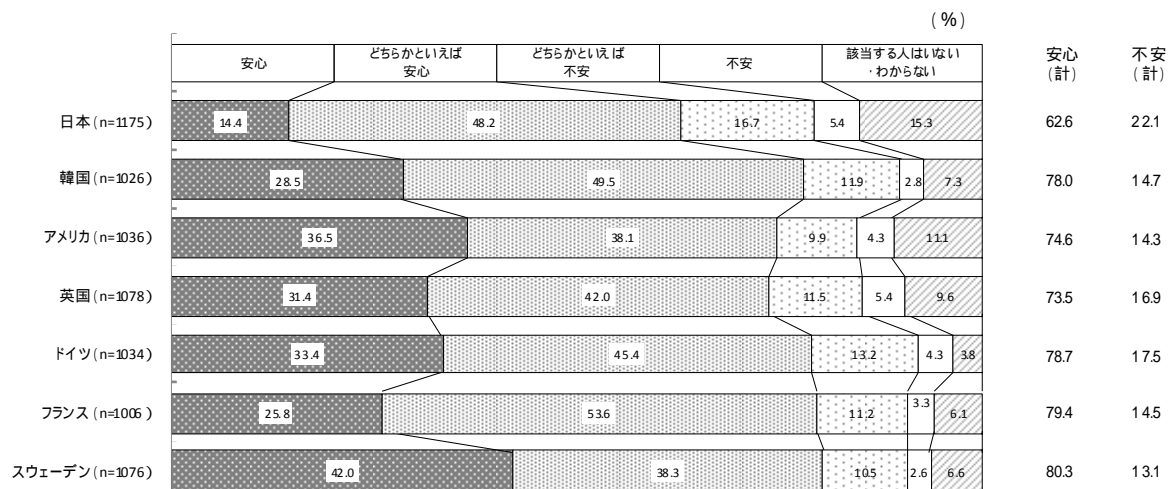
7か国比較で見ると、フランス（**79.9%**）、アメリカ（**79.7%**）、ドイツ（**78.9%**）、英国（**76.8%**）では約8割が『満足』と回答しており、以下、韓国（**70.2%**）、スウェーデン（**69.8%**）となっている。



Q12 あなたは、友人との関係に安心感を覚えますか、それとも不安を感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。(回答は1つ)

友人関係の安心感について日本の若者に聞いたところ、**62.6%**が『安心』（「安心」**14.4%**＋「どちらかといえば安心」**48.2%**）と回答している。

7か国比較で見ると、スウェーデン（**80.3%**）、フランス（**79.4%**）、ドイツ（**78.7%**）、韓国（**78.0%**）では8割前後が『安心』と回答しており、以下、アメリカ（**74.6%**）、英国（**73.5%**）の順となっている。

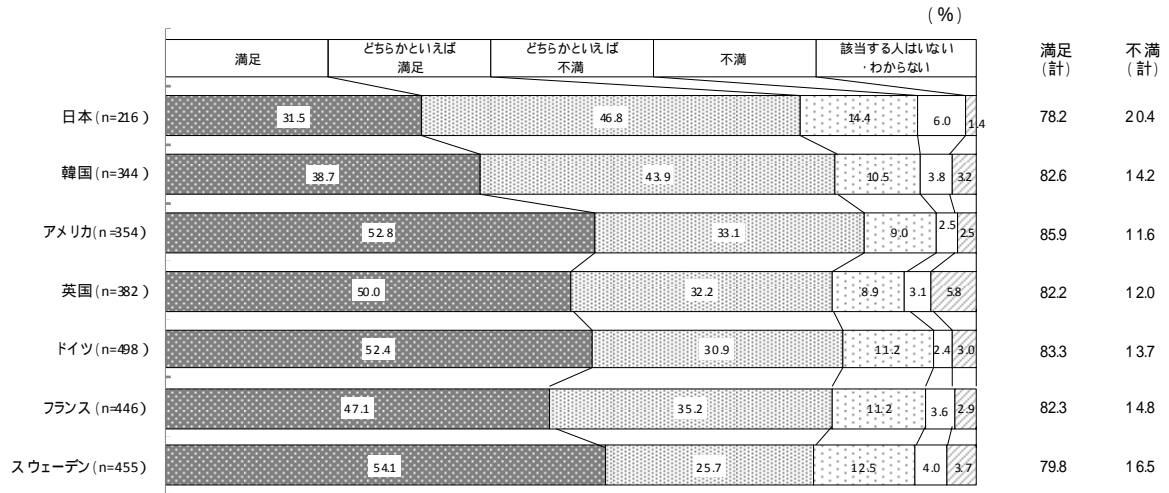


(2) 恋人

Q13 あなたは、恋人との関係に満足を感じていますか、それとも不満を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。(回答は1つ)
 ※事実婚、離死別、未婚で恋人有の人が対象

恋人との関係の満足感を日本の若者に聞いたところ、**78.2%**が『満足』(「満足」**31.5%**＋「どちらかといえば満足」**46.8%**)と回答している。

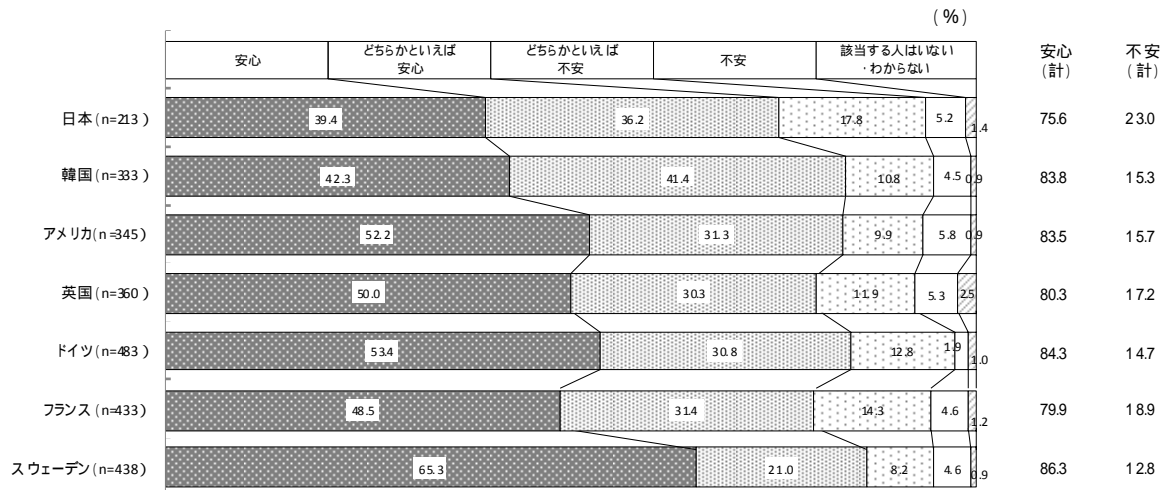
7か国比較で見ると、最も満足感が高いのはアメリカ(**85.9%**)で、それ以外の6か国も8割前後の満足感となっている。



Q14 あなたは、恋人との関係に安心感を覚えますか、それとも不安を感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。(回答は1つ)
 ※Q13で「該当する人はいない・わからない」と回答した人以外が対象

恋人との関係の安心感を日本の若者に聞いたところ、**75.6%**が『安心』(「安心」**39.4%**＋「どちらかといえば安心」**36.2%**)と回答している。

7か国比較で見ると、最も安心感が高いのはスウェーデン(**86.3%**)で、以下、ドイツ(**84.3%**)、韓国(**83.8%**)、アメリカ(**83.5%**)、英国(**80.3%**)、フランス(**79.9%**)となっている。



7 男女関係

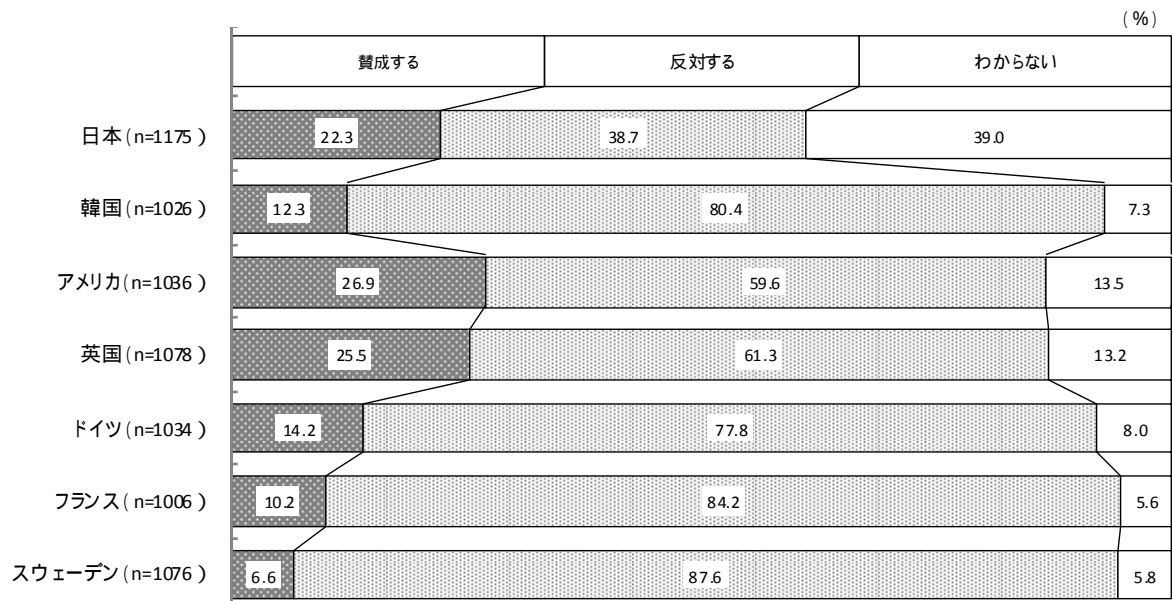
(1) 男女の役割観

Q15 次のような意見にあなたは賛成ですか、反対ですか。(回答はそれぞれ1つずつ)

a) 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ

日本の若者は、「賛成する」が22.3%、「反対する」が38.7%である。

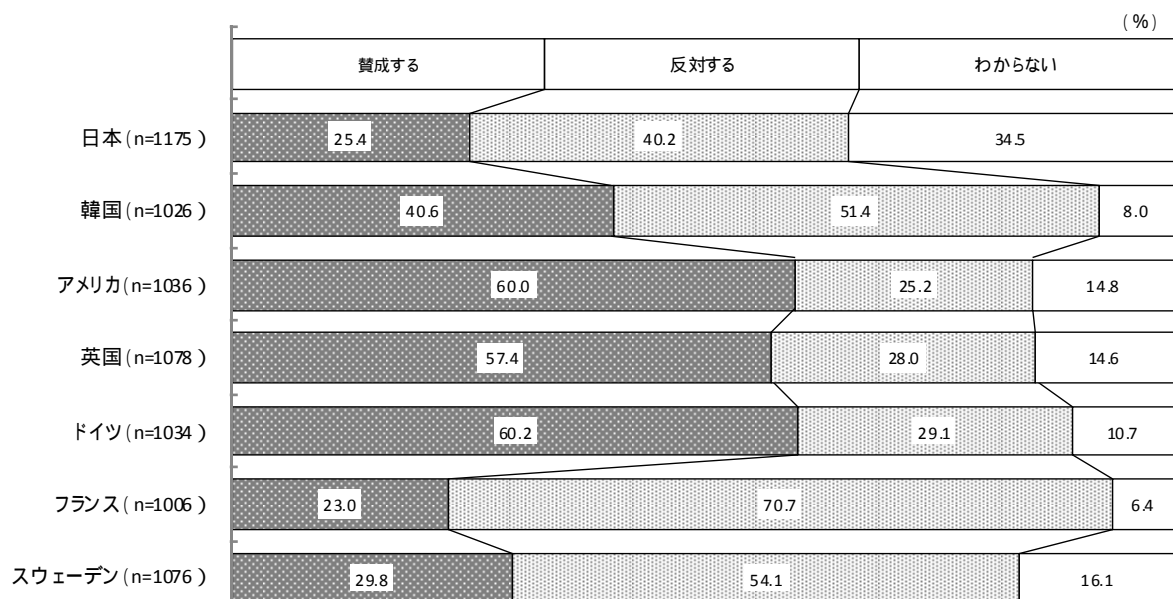
7か国比較で見ると、「賛成する」の割合は、アメリカ(26.9%)、英国(25.5%)が高く、スウェーデン(6.6%)、フランス(10.2%)で低い。



b) 子どもが小さいときは、子どもの世話をするのは母親でなければならない

日本の若者は、「賛成する」が25.4%、「反対する」が40.2%である。

7か国比較で見ると、「賛成する」の割合は、ドイツ(60.2%)、アメリカ(60.0%)、英国(57.4%)が高く、フランス(23.0%)、スウェーデン(29.8%)で低い。

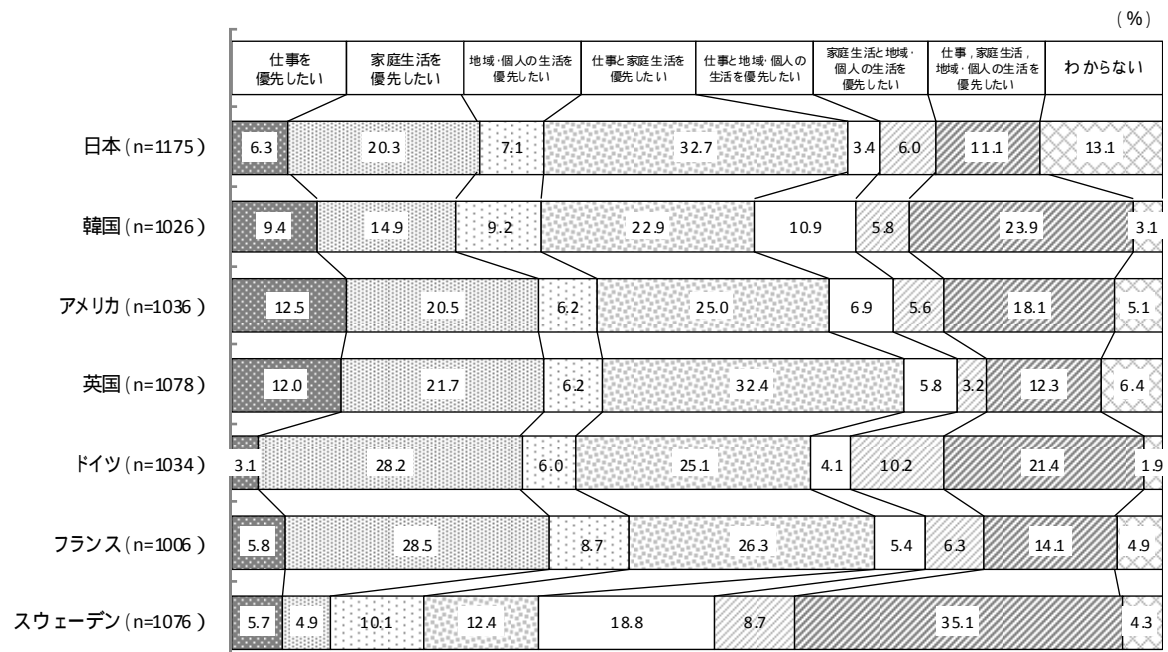


(2) 仕事と家庭の優先度

Q16 あなたの希望に最も近いものを、この中から1つだけ選んでください。(回答は1つ)

仕事と家庭の優先度を日本の若者に聞いたところ、最も割合が高いのは「仕事と家庭生活を優先したい」(32.7%)で、約3分の1を占めている。次いで「家庭生活を優先したい」が20.3%である。

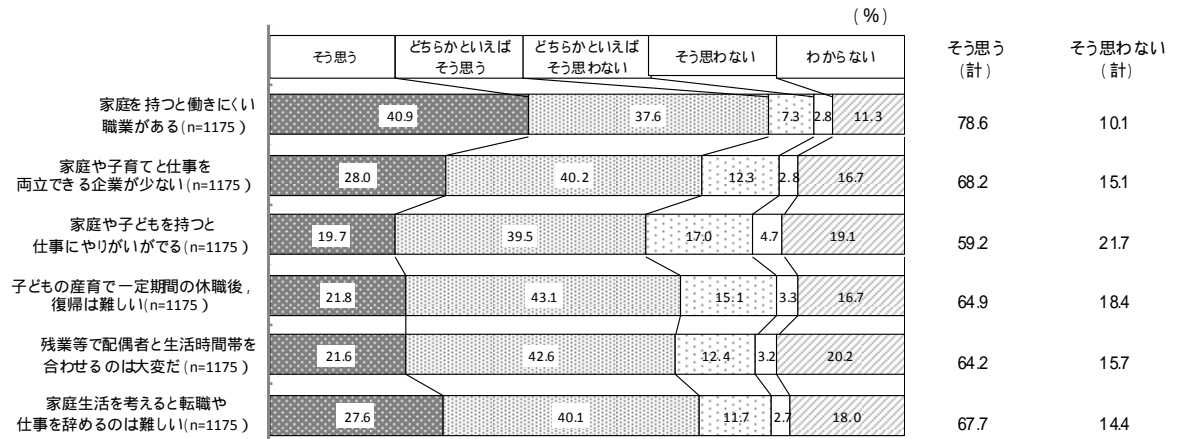
7か国比較では、英国が日本と類似する回答傾向である。アメリカ、ドイツ、フランスでは「家庭生活を優先したい」(アメリカ20.5%、ドイツ28.2%、フランス28.5%)の割合が最も高く、スウェーデンでは「仕事、家庭生活、地域・個人の生活を優先したい」(35.1%)の割合が最も高い。韓国では「仕事と家庭生活を優先したい」(22.9%)と「仕事、家庭生活、地域・個人の生活を優先したい」(23.9%)が同程度である。



(3) 仕事と家庭の関係

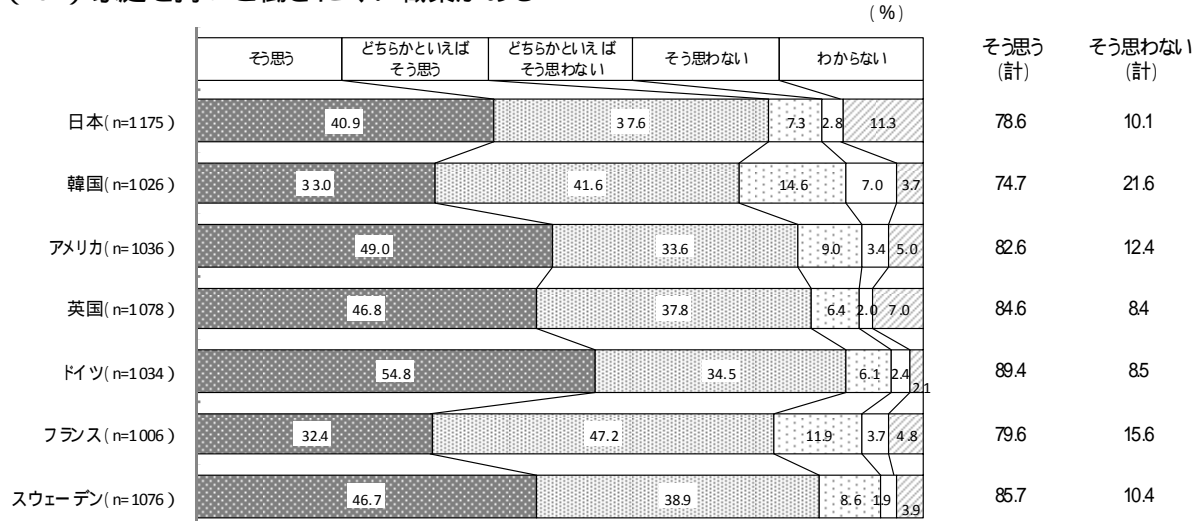
Q17 仕事と家庭との関係についてどう思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ)

仕事と家庭との関係について、日本の若者に聞いたところ、「家庭を持つと働きにくい職業がある」(78.6%)、「家庭や子育てと仕事を両立できる企業が少ない」(68.2%)、「家庭生活を考えると転職や仕事を辞めるのは難しい」(67.7%)等の項目で、『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合が高い。

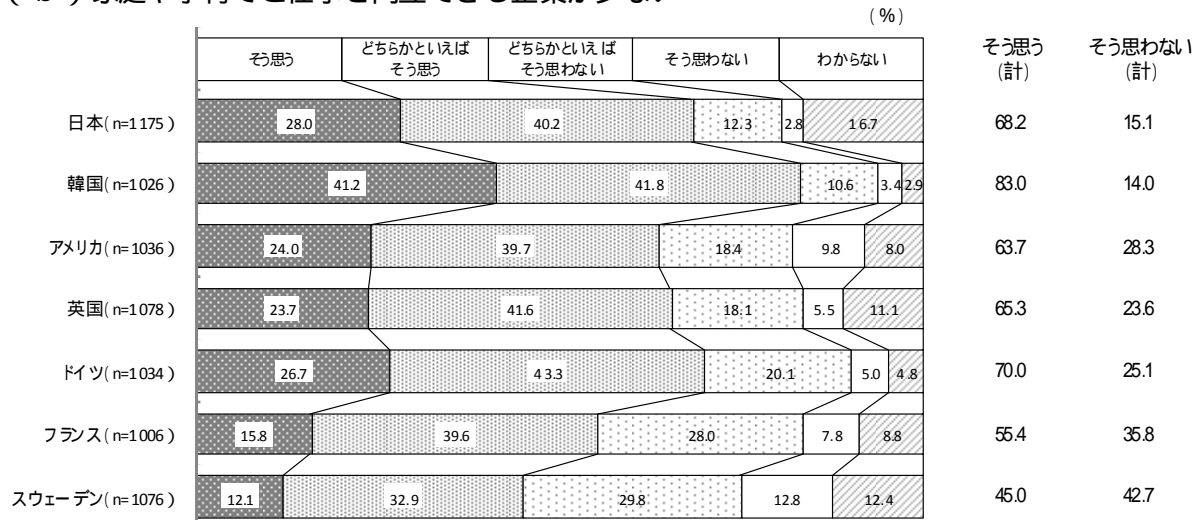


【国別】

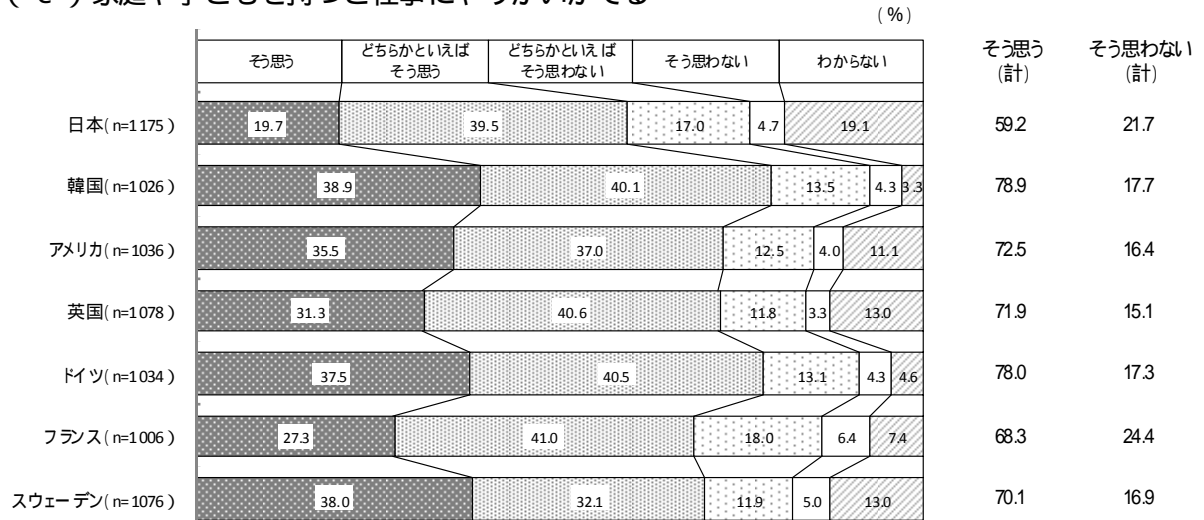
(a) 家庭を持つと働きにくい職業がある



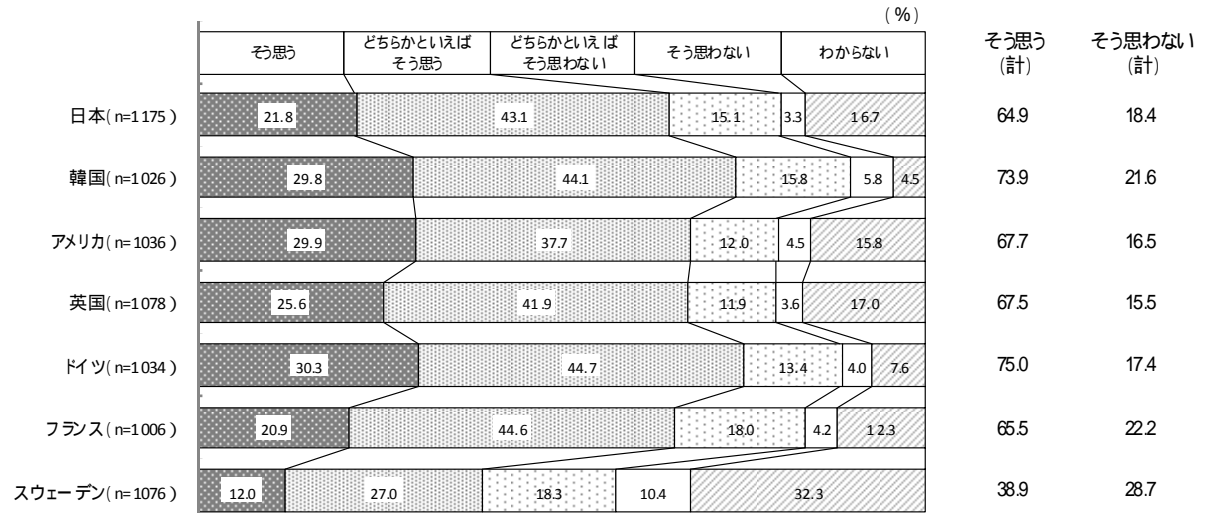
(b) 家庭や子育てと仕事を両立できる企業が少ない



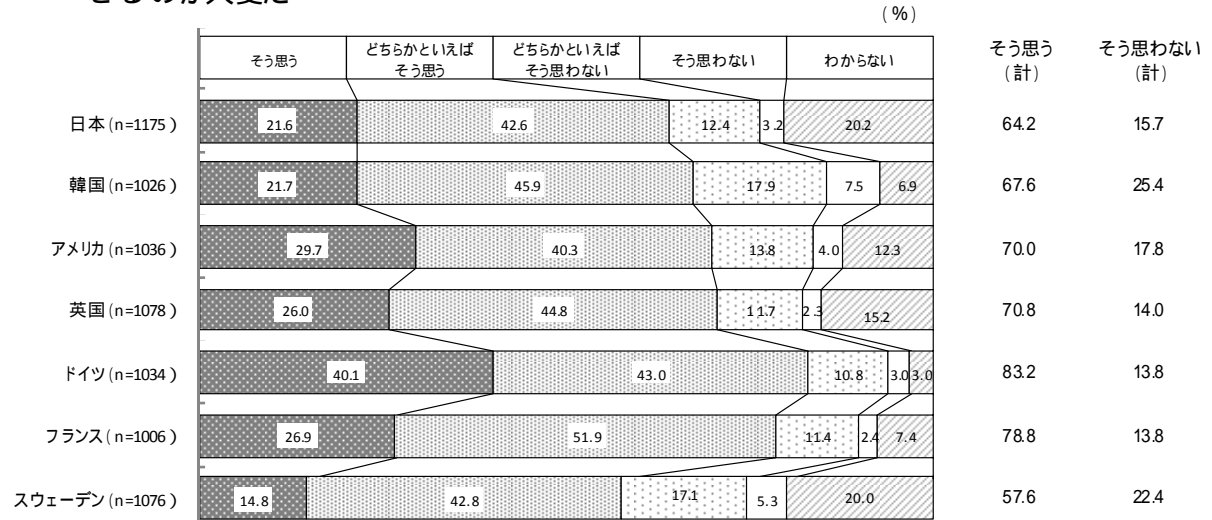
(c) 家庭や子どもを持つと仕事にやりがいがある



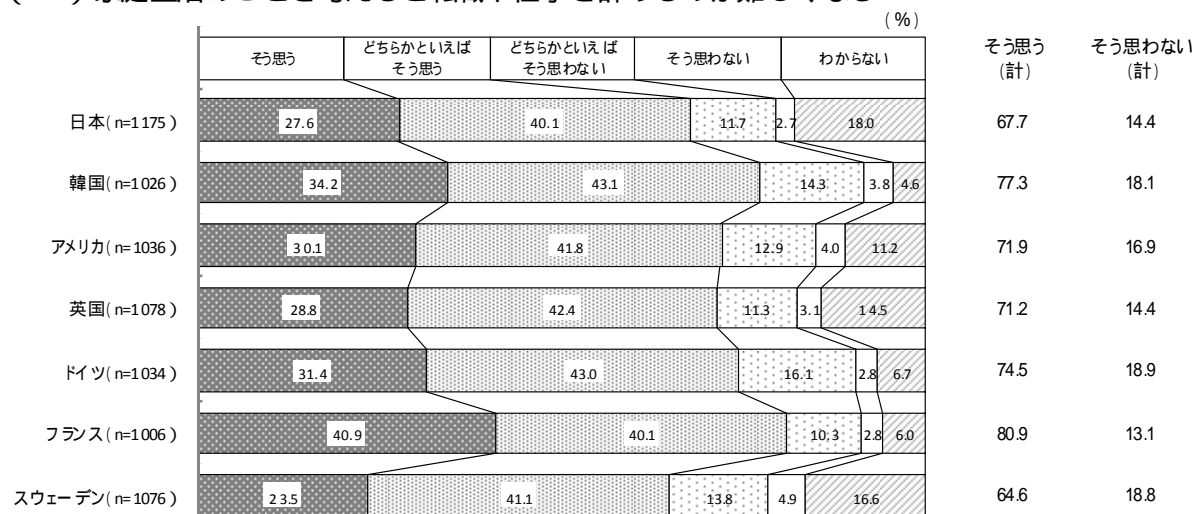
(d) 子どもを産み育てるために会社を一定期間休んだ後、職場に復帰することが難しい



(e) 残業等で配偶者（妻や夫のこと、事実婚のパートナーを含む）と生活時間帯を合わせるのが大変だ



(f) 家庭生活のことを考えると転職や仕事を辞めるのが難しくなる

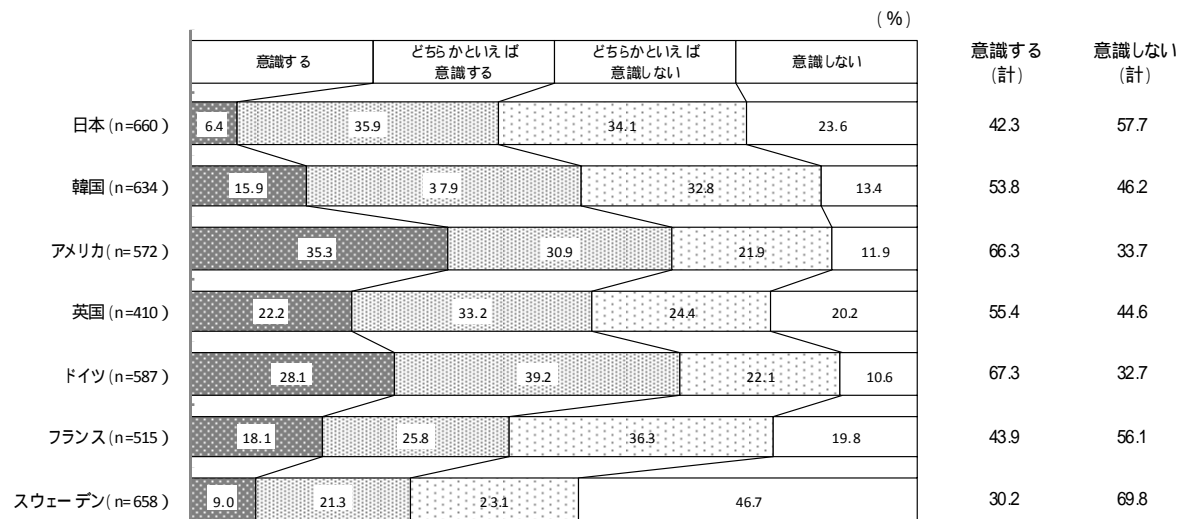


(4) 性別と進路選択の関係

Q18 あなたは進路や職業を考える際に性別を意識しますか。あてはまるものを1つ選んでください。(回答は1つ) ※在学中の人が対象

日本の若者に、進路や職業を考える際に性別を意識するかどうか聞いたところ、『意識する』と回答したのは**42.3%**（「意識する」**6.4%**＋「どちらかといえば意識する」**35.9%**）である。

7か国比較で見ると、ドイツ（**67.3%**）とアメリカ（**66.3%**）では7割近くが『意識する』と回答している。一方スウェーデンでは、『意識する』は**30.2%**にとどまっている。



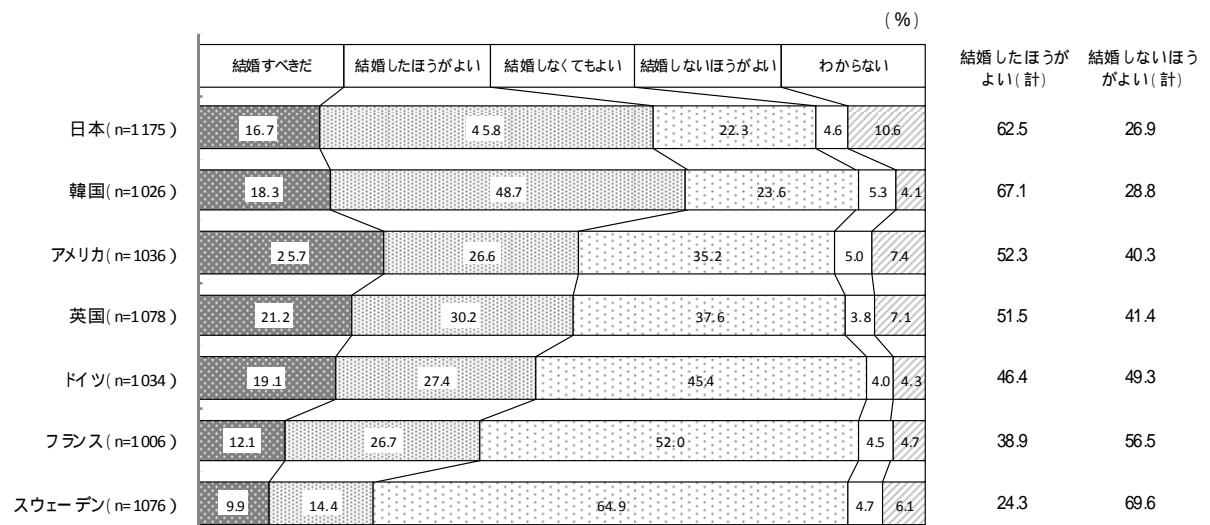
8 結婚観

(1) 結婚観

Q19 あなたは、結婚（事実婚を含む）についてどうお考えですか。この中からあなたの考えに近いものを、1つだけ選んでください。（回答は1つ）

日本の若者に結婚観について聞いたところ、『結婚したほうがよい』と考えているのは62.5%（「結婚すべきだ」16.7%+「結婚したほうがよい」45.8%）である。

7か国比較で見ると、『結婚したほうがよい』との回答割合が最も高いのは韓国（67.1%）で、以下アメリカ（52.3%）、英国（51.5%）、ドイツ（46.4%）、フランス（38.9%）、スウェーデン（24.3%）の順となっている。



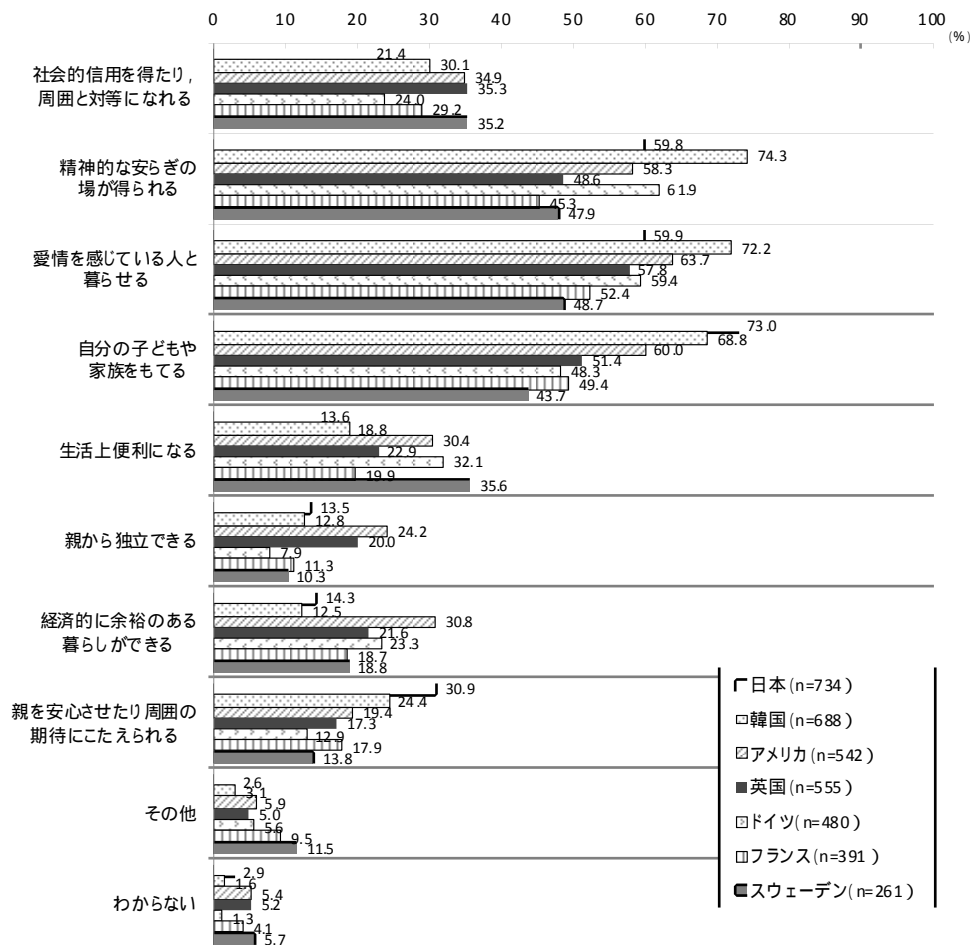
(2) 結婚した方がよい理由

Q20 あなたが、結婚（事実婚を含む）すべきだ、結婚したほうがよいと考える理由にあてはまるものを、この中からいくつでも選んでください。（回答はいくつでも）
 ※Q19で「結婚すべきだ」「結婚したほうがよい」と回答した人が対象

日本の若者に結婚した方がよい理由を聞いたところ、「自分の子どもや家族をもてる」(73.0%)、「愛情を感じている人と暮らせる」(59.9%)、「精神的な安らぎの場が得られる」(59.8%)が主な理由としてあげられている。また、他国よりも「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」(30.9%)の割合が高いのも特徴である。

7か国比較で見ると、各国とも共通して「精神的な安らぎの場が得られる」、「愛情を感じている人と暮らせる」、「自分の子どもや家族をもてる」の割合が高い。

それ以外の理由としては、アメリカでは「社会的信用を得たり、周囲と対等になれる」(34.9%)、「経済的に余裕のある暮らしができる」(30.8%)、「親から独立できる」(24.2%)等の割合が高く、スウェーデンでは「生活上便利になる」(35.6%)、「社会的信用を得たり、周囲と対等になれる」(35.2%)等の割合が高い。



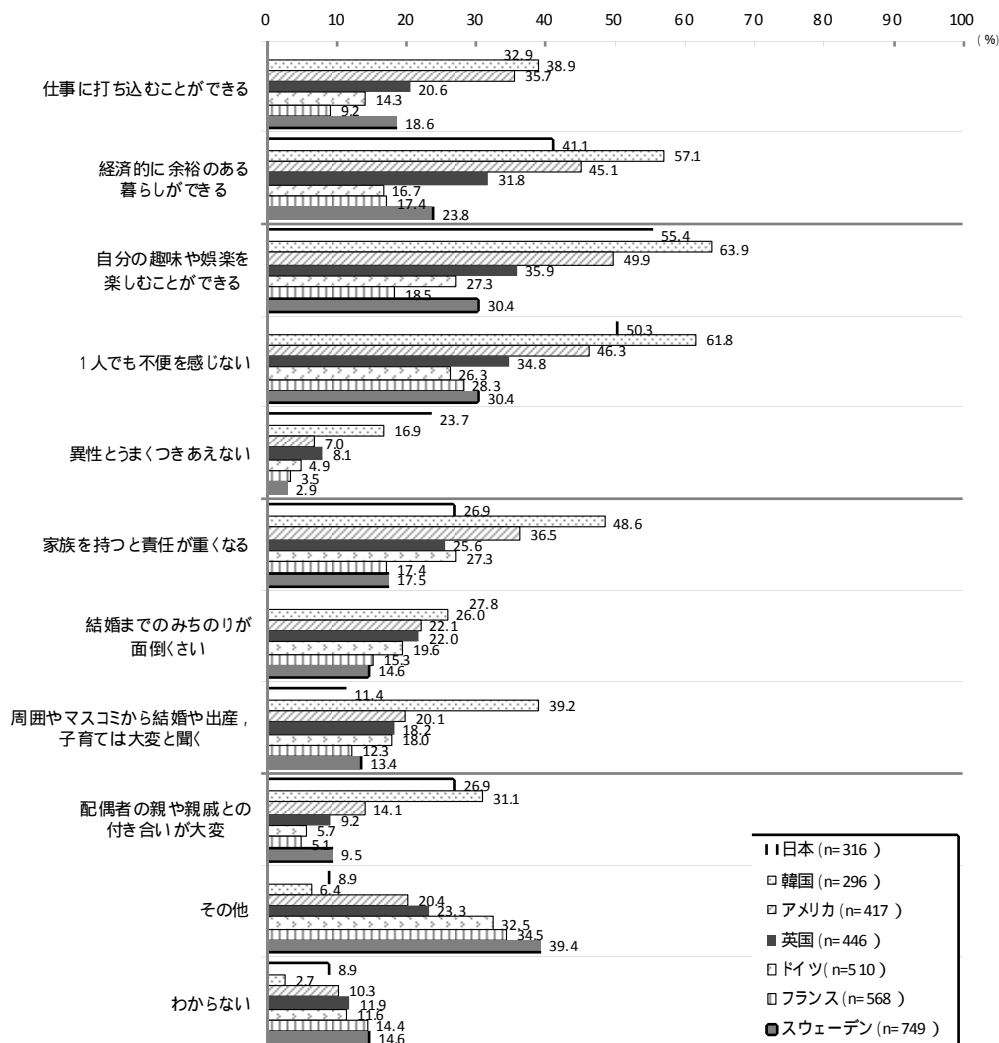
(3) 結婚しない方がよい理由

Q21 あなたが、結婚（事実婚を含む）しなくてもよい、結婚しないほうがよいと考える理由にあてはまるものを、この中からいくつでも選んでください。（回答はいくつでも）

※Q19で「結婚しなくてもよい」「結婚しないほうがよい」と回答した人が対象

日本の若者に結婚しない方がよい理由を聞いたところ、「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」(55.4%)が最も多く、次いで「1人でも不便を感じない」(50.3%)、「経済的に余裕のある暮らしができる」(41.1%)、「仕事に打ち込むことができる」(32.9%)と続く。

7か国比較で見ると、各国とも共通して「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」、「1人でも不便を感じない」、「経済的に余裕のある暮らしができる」、「仕事に打ち込むことができる」の割合が高い。韓国では特にこれらの回答割合が高いほか、「家族を持つと責任が重くなる」(48.6%)、「周囲やマスコミから結婚や出産、子育ては大変と聞く」(39.2%)についても、他国よりも高い割合となっている。

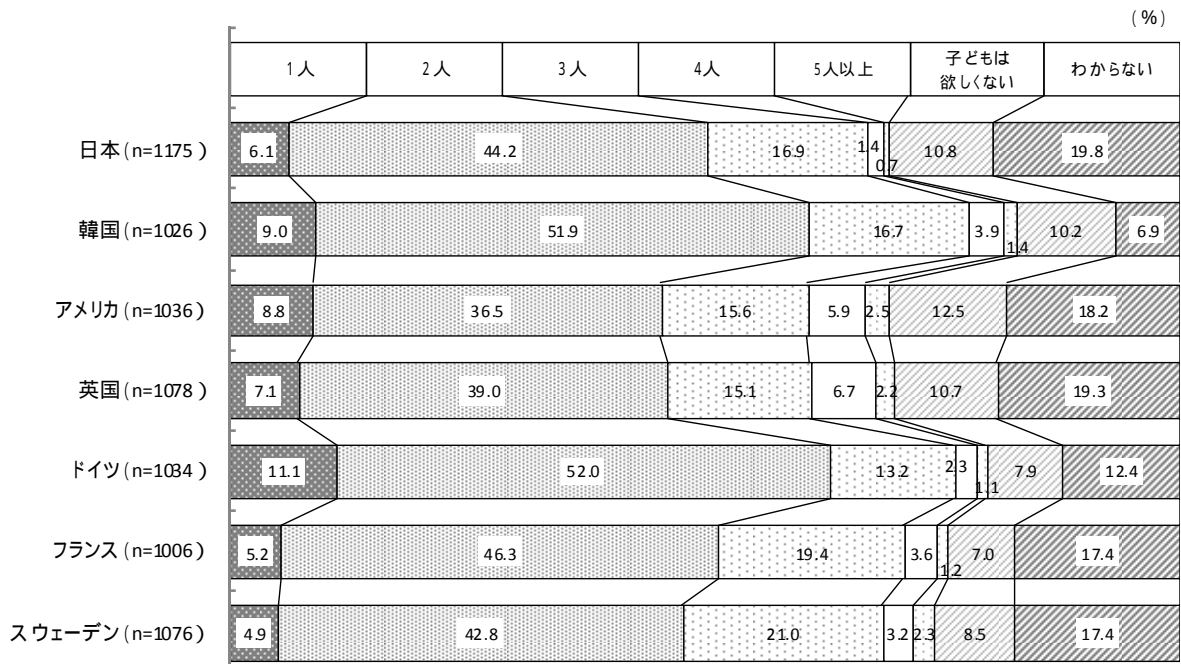


(4) 欲しい子どもの人数

Q22 あなたは、全部で何人の子どもが欲しいですか。すでにお子さんがいる場合には、そのお子さんも含めてお答えください。(回答は1つ)

日本の若者に欲しい子どもの人数を聞いたところ、「2人」が最も多く **44.2%** を占め、次いで「3人」が **16.9%** である。「子どもは欲しくない」は **10.8%** 存在する。

7か国比較で見ると、いずれの国も「2人」が最も多く、4～5割程度を占めている。韓国とドイツでは、他国に比べ、欲しい子どもの人数は2人以下という割合が高い。



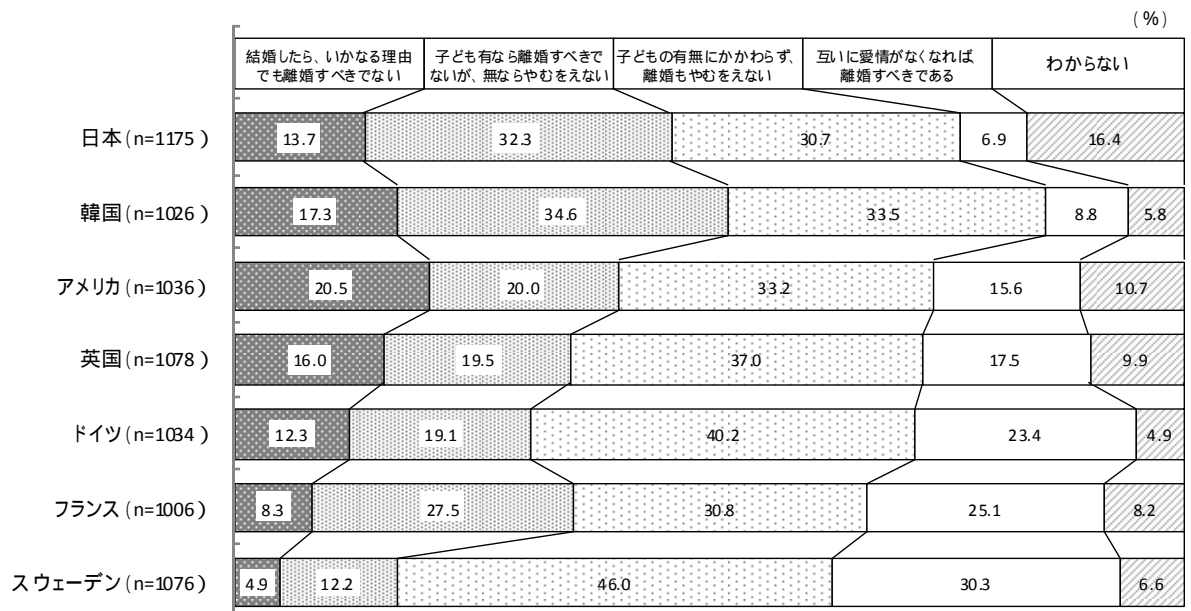
(5) 離婚観

Q23 あなたは、離婚についてどうお考えですか。この中からあなたの考えに近いものを1つだけ選んでください。(回答は1つ)

離婚観について日本の若者に聞いたところ、「子どもがいれば離婚すべきではないが、いなければ、事情によってはやむをえない」(32.3%)、「子どもの有無にかかわらず、事情によっては離婚もやむをえない」(30.7%)がそれぞれ3割程となっている。「互いに愛情がなくなれば、離婚すべきである」は6.9%である。

7か国比較で見ると、「いったん結婚したら、いかなる理由があっても離婚すべきではない」の割合は、アメリカ(20.5%)、韓国(17.3%)、英国(16.0%)で高い。

「互いに愛情がなくなれば、離婚すべきである」は、スウェーデン(30.3%)で最も高く、フランス(25.1%)、ドイツ(23.4%)でも、それぞれ約4分の1を占めている。



第2章 国家・社会関係

1 自国に対する意識

(1) 自国で誇れるもの

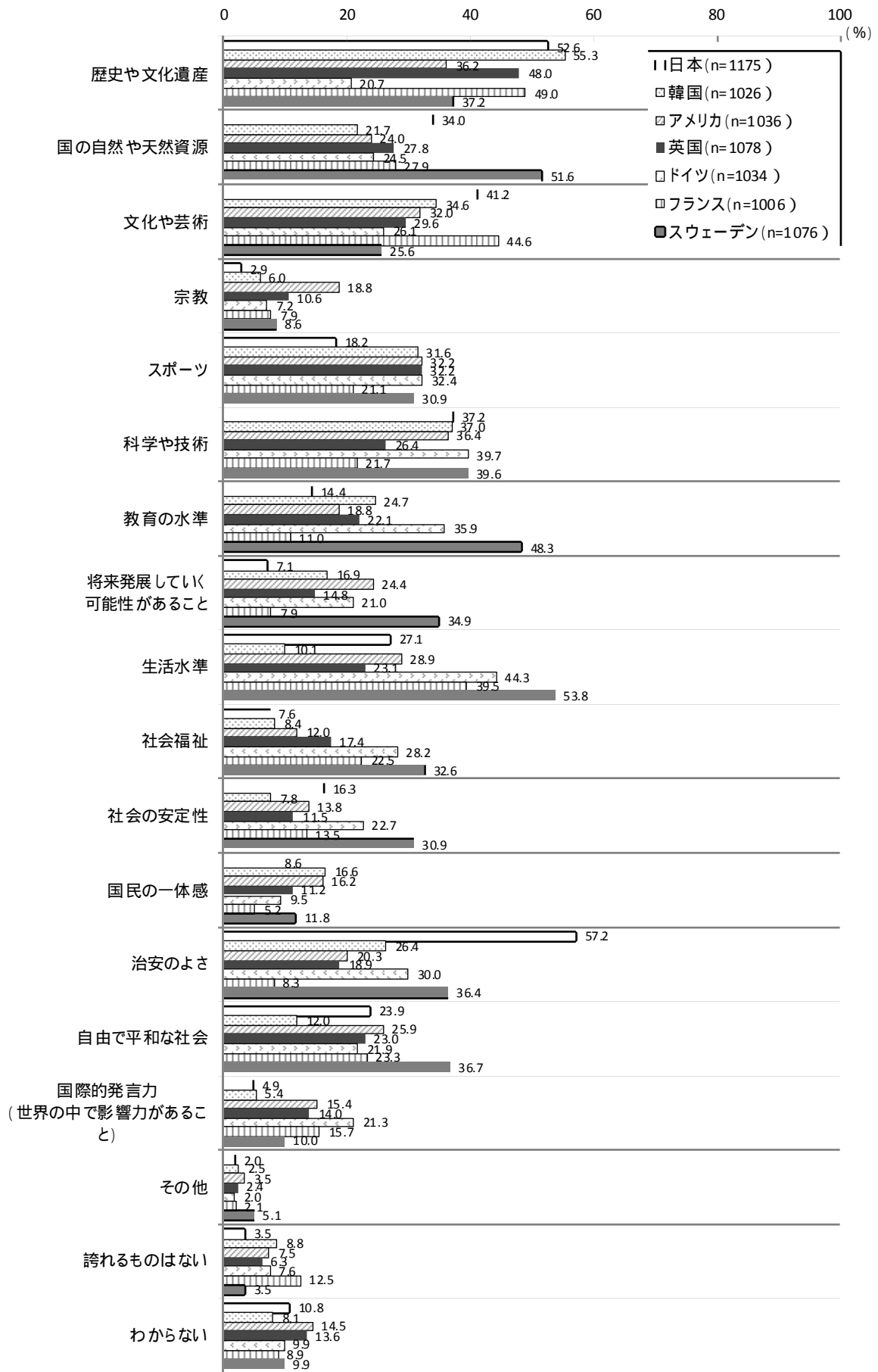
Q24 あなたは、自国は何か誇れるものを持っていると思いますか、それともそうは思いませんか。持っていると思う場合には、この中からいくつでも選んでください。(回答はいくつでも)

自国で誇れるものを日本の若者に聞いたところ、「治安のよさ」(57.2%)の割合が最も高く、次いで「歴史や文化遺産」(52.6%)、「文化や芸術」(41.2%)、「科学や技術」(37.2%)となっている。

他国を見ると、韓国は「歴史や文化遺産」(55.3%)、「科学や技術」(37.0%)、「文化や芸術」(34.6%)が上位3項目にあげられている。

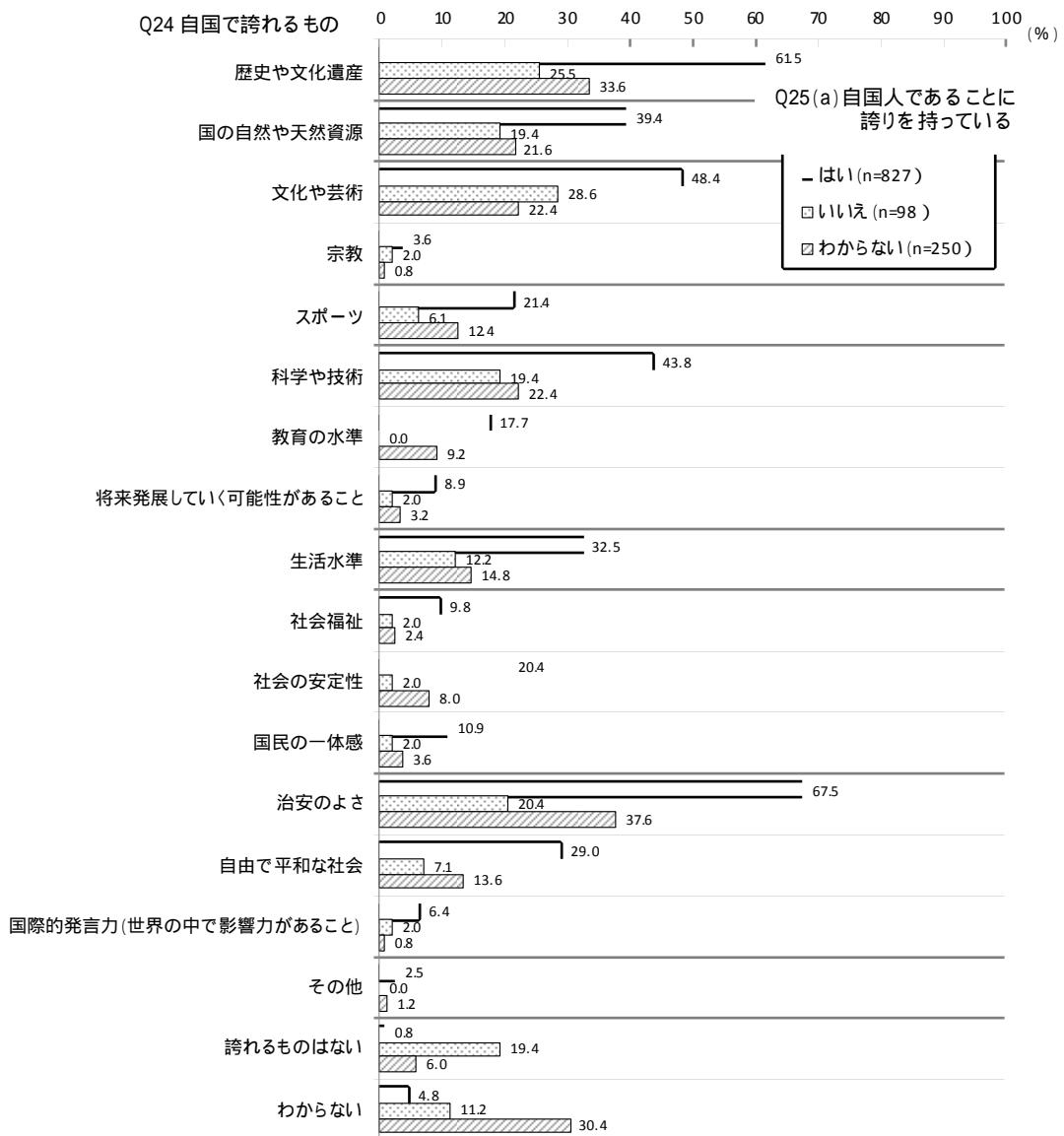
アメリカは「科学や技術」(36.4%)、「歴史や文化遺産」(36.2%)、「スポーツ」(32.2%)、英国は「歴史や文化遺産」(48.0%)、「スポーツ」(32.2%)、「文化や芸術」(29.6%)の順である。

ドイツは「生活水準」(44.3%)、「科学や技術」(39.7%)、「教育の水準」(35.9%)、フランスは「歴史や文化遺産」(49.0%)、「文化や芸術」(44.6%)、「生活水準」(39.5%)、スウェーデンでは「生活水準」(53.8%)、「国の自然や天然資源」(51.6%)、「教育の水準」(48.3%)となっている。



【分析】 『自国人であることの誇り』の内容

日本の若者は、『自国人であることの誇り』を何によって感じているのであろうか。自国人であることの誇りを持っている（「はい」）とする若者は、「治安のよさ」（67.5%）や「歴史や文化遺産」（61.5%）をあげる割合が高い。次いで、「文化や芸術」（48.4%）、「科学や技術」（43.8%）、「生活水準」（32.5%）などがあがり、これらをより強く感じていることがわかる。



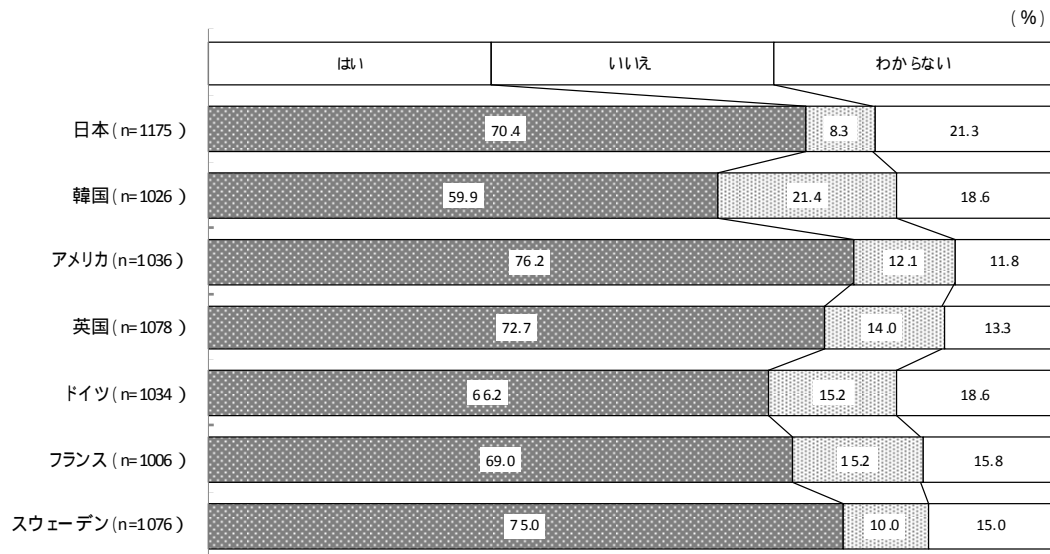
(2) 自国人の誇りと自国への奉仕

Q25 あなたは、これから述べることについてどう思いますか。それぞれについて「はい」か「いいえ」で答えてください。(回答はそれぞれ1つずつ)

(a) 自国人であることに誇りを持っている

日本の若者の **70.4%** が「自国人であることに誇りを持っている」と回答している。

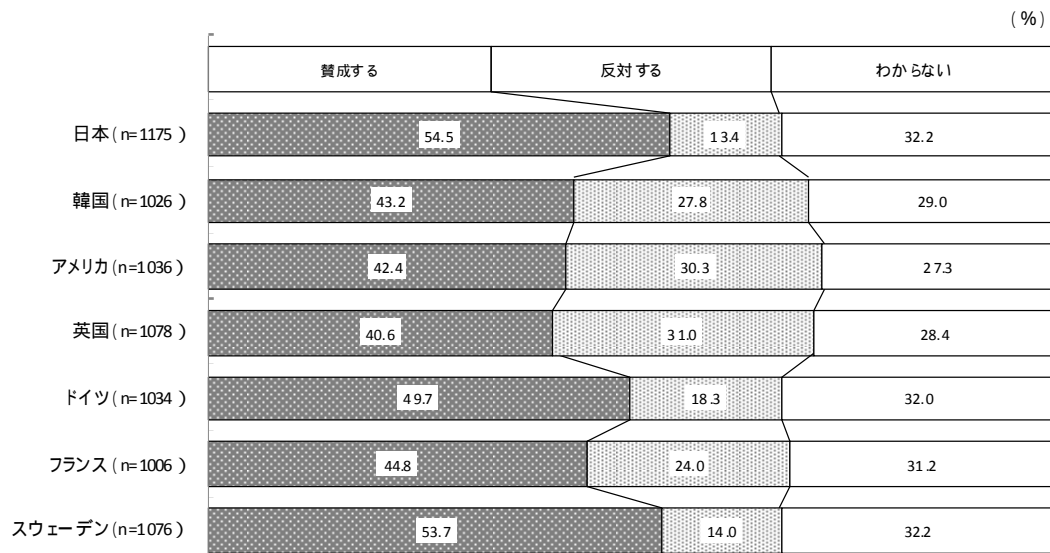
7か国比較で見ると、「自国人であることに誇りを持っている」割合が最も高いのはアメリカ (**76.2%**) で、以下、スウェーデン (**75.0%**)、英国 (**72.7%**)、フランス (**69.0%**)、ドイツ (**66.2%**)、韓国 (**59.9%**) の順となっている。



(b) 自国のために役立つと思うようなことをしたい

日本の若者の **54.5%** が「自国のために役立つと思うようなことをしたい」と回答している。

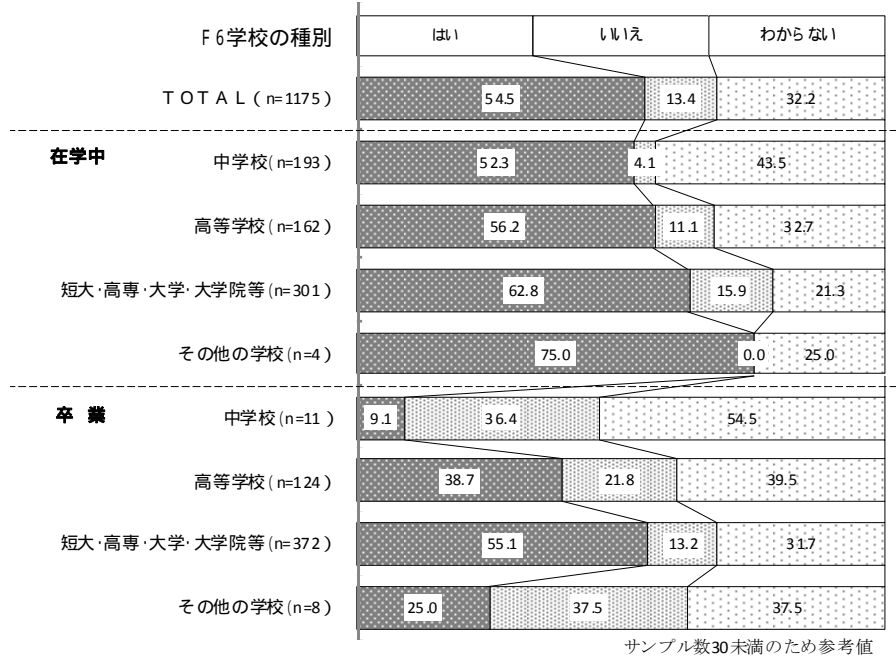
7か国比較で見ると、日本が最も高く、以下、スウェーデン (**53.7%**)、ドイツ (**49.7%**)、フランス (**44.8%**)、韓国 (**43.2%**)、アメリカ (**42.4%**)、英国 (**40.6%**) となっている。



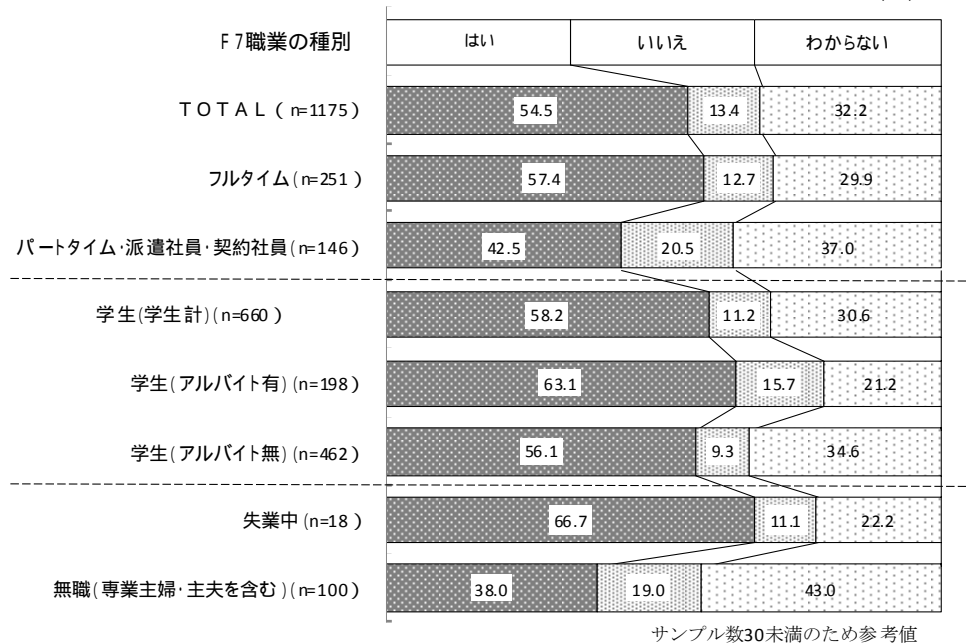
【分析】 『自国への奉仕』に対する意識

日本の若者は、7か国中もっとも『自国のために役立つと思うようなことをしたい』と感じている割合が高い。その傾向は、学歴が高いほど高く、一方で非正規雇用（パートタイム・派遣社員・契約社員）や無職の状態にある若者ほど低い。

Q25(b) 自国のために役立つと思うようなことをしたい (%)



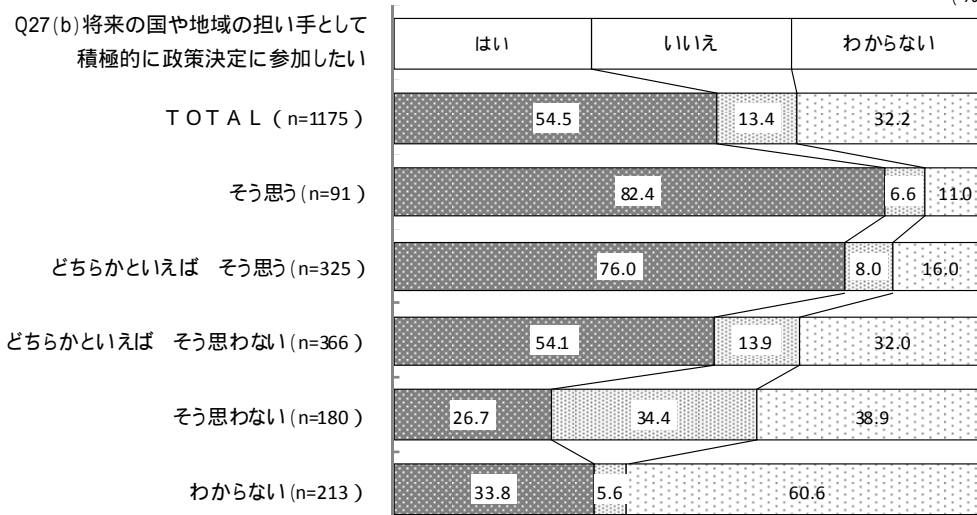
Q25(b) 自国のために役立つと思うようなことをしたい (%)



また、将来の国や地域の担い手として政策決定に参加したい、自らの社会参加により社会現象が少し変えられるかもしれないと思う若者ほど『自国のために役立つと思うようなことをしたい』と思う傾向は強い。

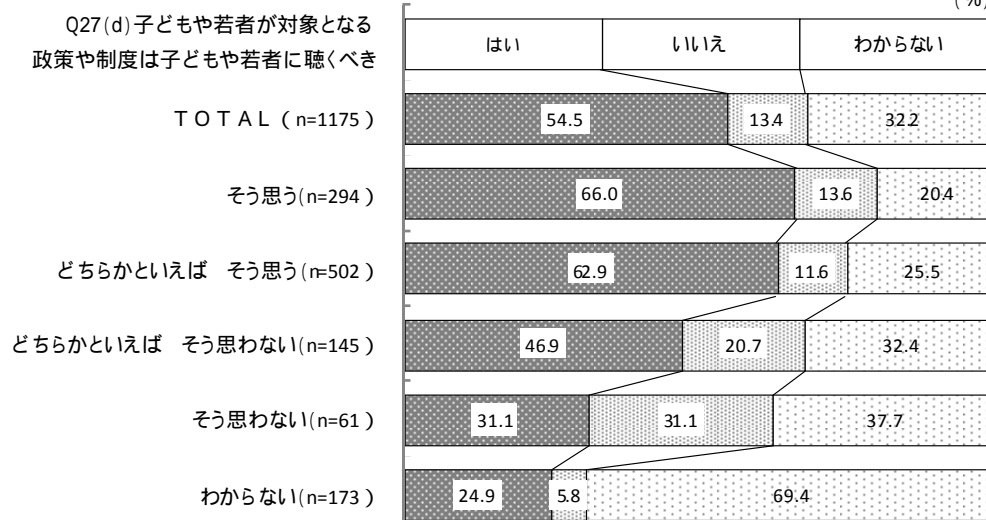
Q25(b) 自国のために役立つと思うようなことをしたい

(%)

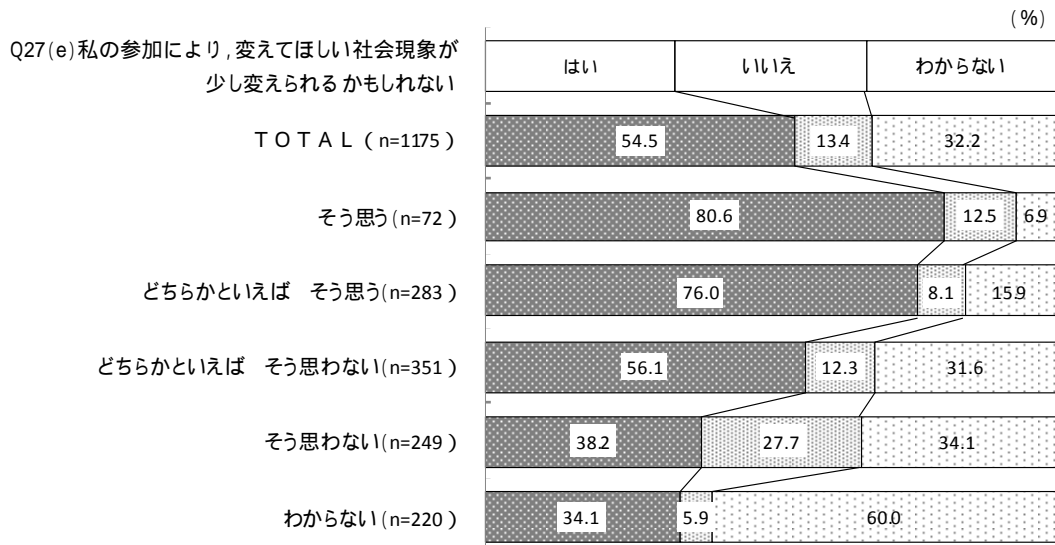


Q25(b) 自国のために役立つと思うようなことをしたい

(%)



Q25(b) 自国のために役立つと思うようなことをしたい



「Q25(b) 自国のために役立つと思うようなことをしたい」との相関

将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい	.38	**
子どもや若者が対象となる政策や制度については子どもや若者の意見を聴くようにすべき	.33	**
私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない	.35	**

* 有意水準<.05, ** 有意水準<.01

しかし一方で、『将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい』、『私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない』等と考える日本の若者の割合（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は、それぞれ7か国中もっとも低い（67, 68 ページ参照）。

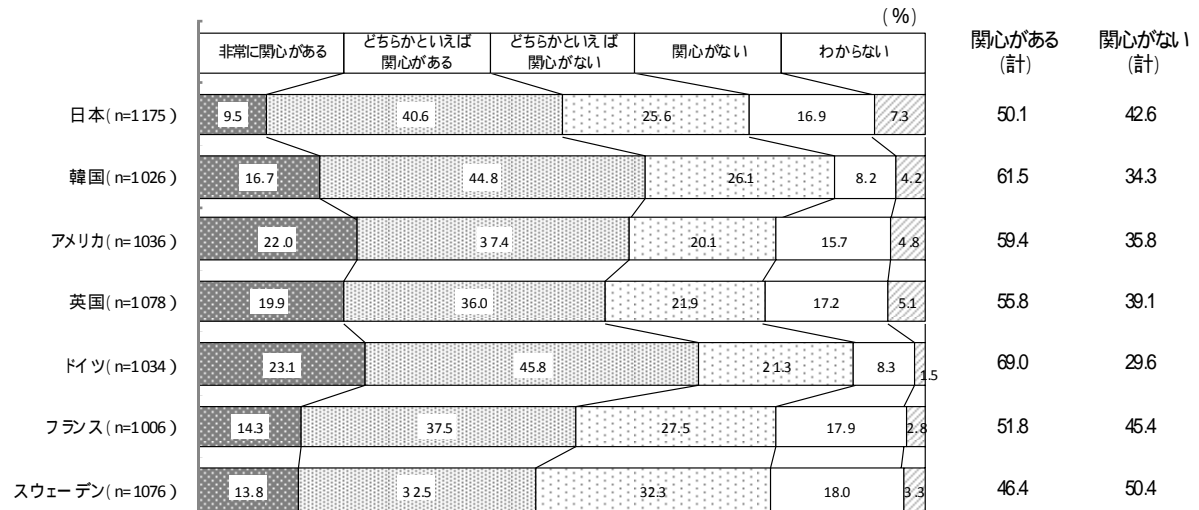
自国に役立ちたいとする若者の意識に応じていくためには、若者が社会に積極的に関わりたいとする態度の醸成に役立つ教育や、参加する機会の提供等の施策を推進することが期待される。

(3) 政治に対する関心度

Q26 あなたは、今の自国の政治にどのくらい関心がありますか。(回答は1つ)

日本の若者に政治に対する関心度を聞いたところ、50.1%が『関心がある』（「非常に関心がある」9.5%+「どちらかといえば関心がある」40.6%）と回答している。

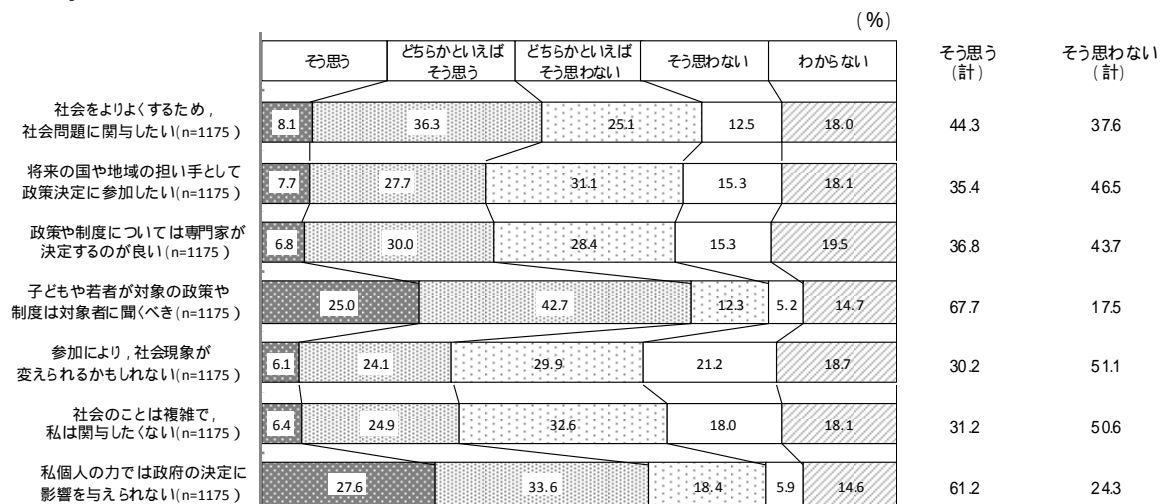
7か国比較で見ると、最も関心が高いのはドイツ（69.0%）で、以下、韓国（61.5%）、アメリカ（59.4%）、英国（55.8%）、フランス（51.8%）、スウェーデン（46.4%）となっている。



(4) 政策決定過程への関与

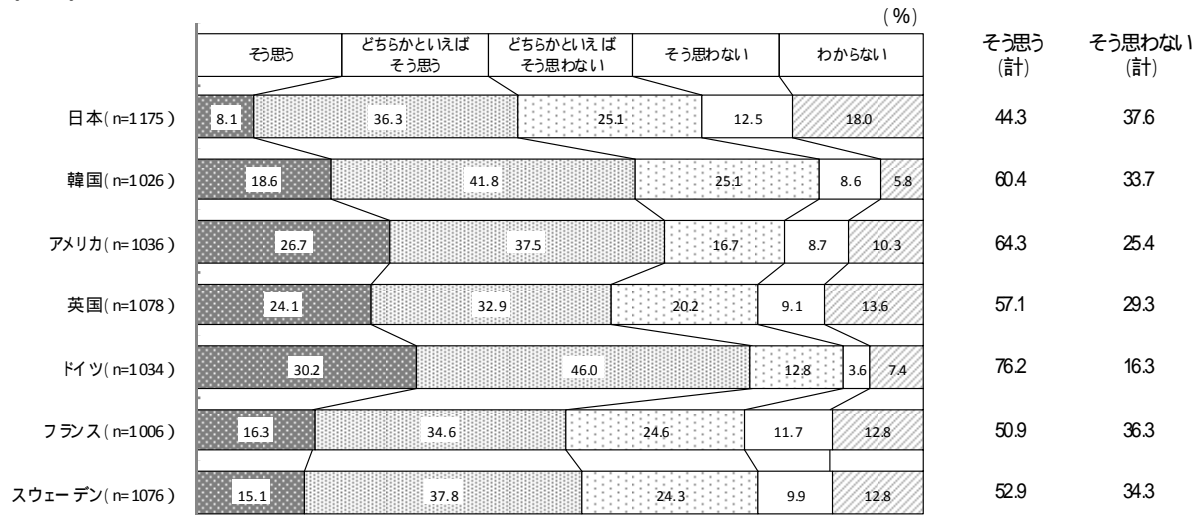
Q27 次のような意見について、あなたはどのように考えますか。それぞれについて、あてはまるものを1つ選んでください。(回答はそれぞれ1つずつ)

日本の若者に政策決定過程への関与について聞いたところ、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）の割合が最も高いのは「子どもや若者が対象の政策や制度は対象者に聞くべき」（67.7%）である。次いで、「私個人の力では政府の決定に影響を与えられない」（61.2%）、「社会をよりよくするため、社会問題に関与したい」（44.3%）となっている。

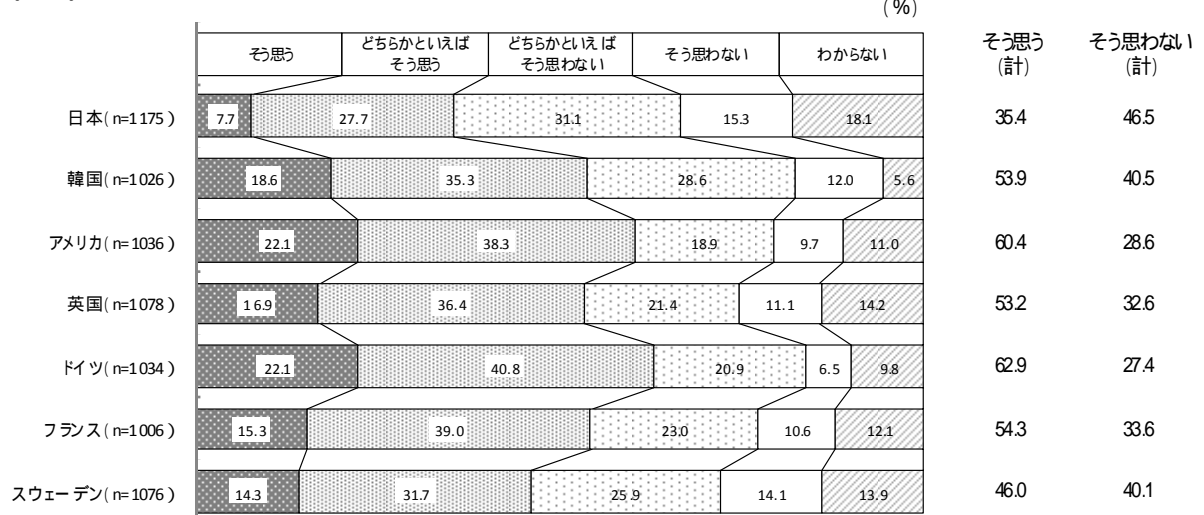


【国別】

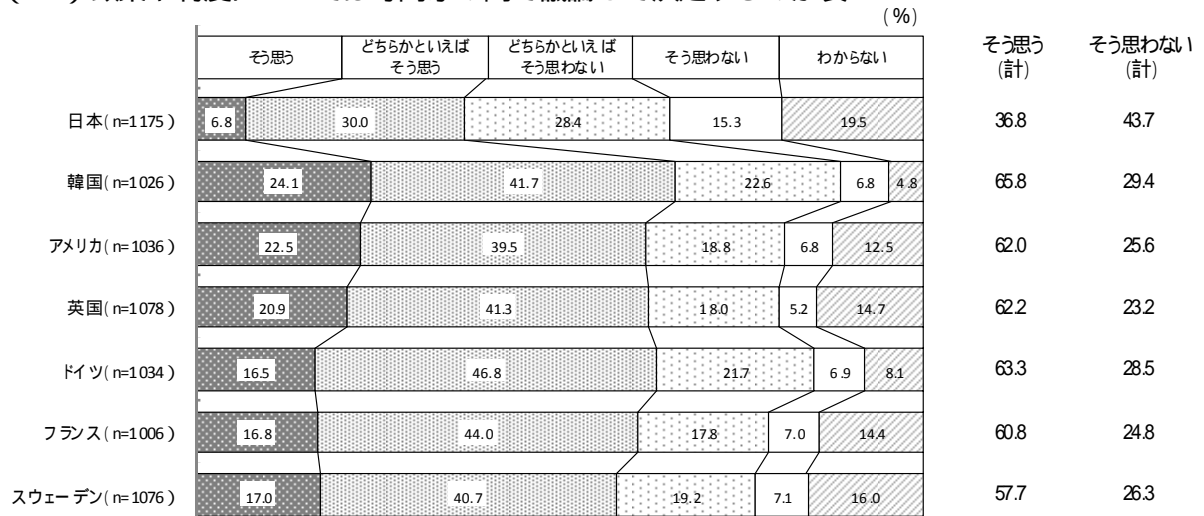
(a) 社会をよりよくするため、私は社会における問題に関与したい



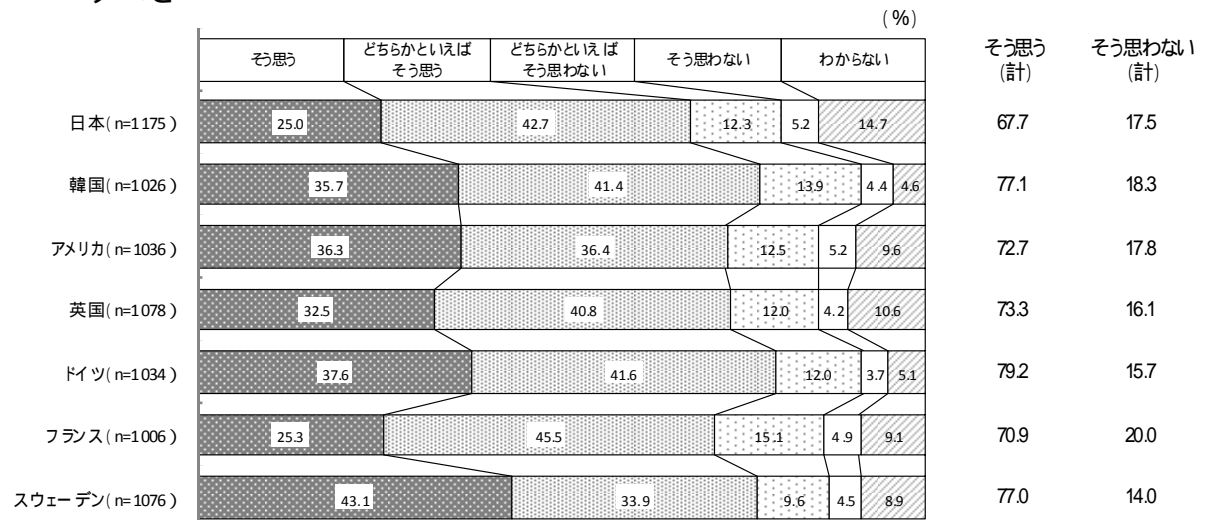
(b) 将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい



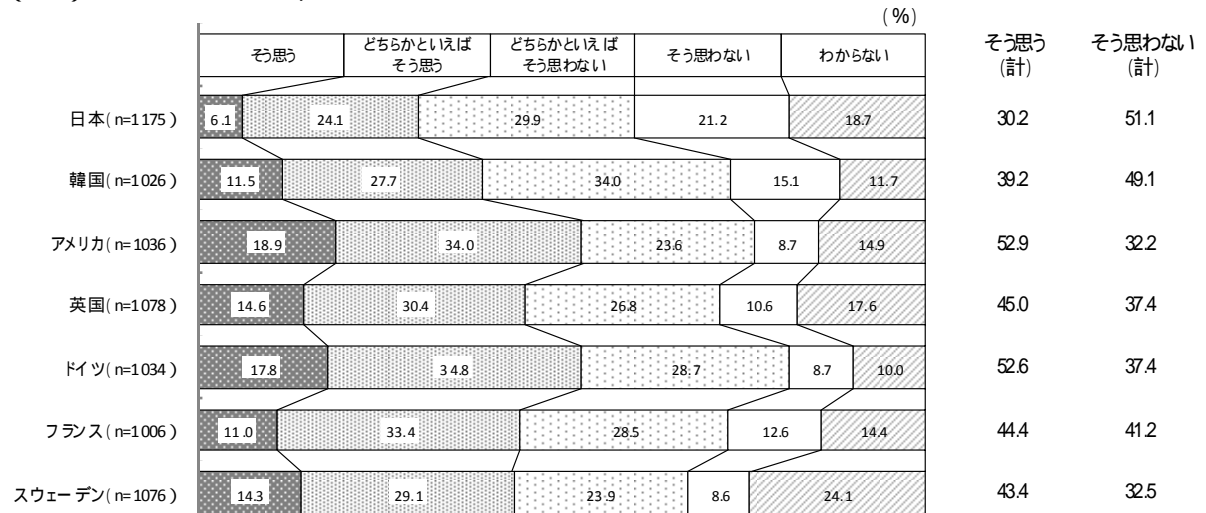
(c) 政策や制度については専門家間で議論して決定するのが良い



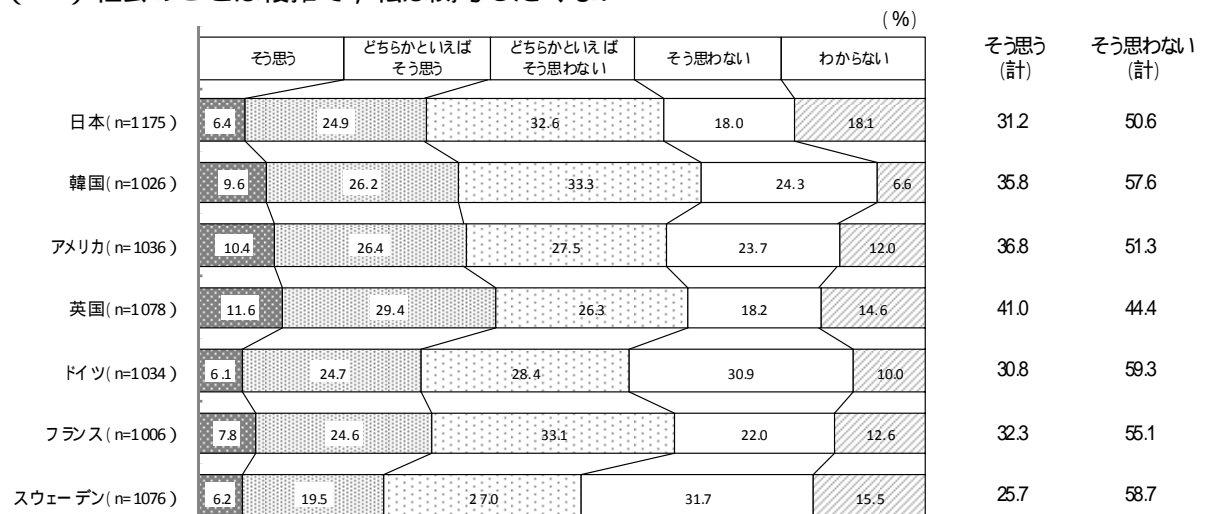
(d) 子どもや若者が対象となる政策や制度については子どもや若者の意見を聴くようにすべき



(e) 私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない



(f) 社会のことは複雑で、私は関与したくない



(g) 私個人の力では政府の決定に影響を与えられない

(%)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	そう思う (計)	そう思わない (計)
日本 (n=1175)	27.6	33.6	18.4	5.9	14.6	61.2	24.3
韓国 (n=1026)	24.5	36.5	23.1	9.6	6.4	60.9	32.7
アメリカ (n=1036)	19.5	29.3	23.6	16.7	10.8	48.8	40.3
英国 (n=1078)	26.2	35.5	18.5	8.9	10.9	61.7	27.4
ドイツ (n=1034)	25.9	36.1	19.3	11.6	7.1	62.0	30.9
フランス (n=1006)	29.8	32.3	18.8	10.3	8.7	62.1	29.1
スウェーデン (n=1076)	13.6	25.6	31.1	17.8	12.0	39.1	48.9

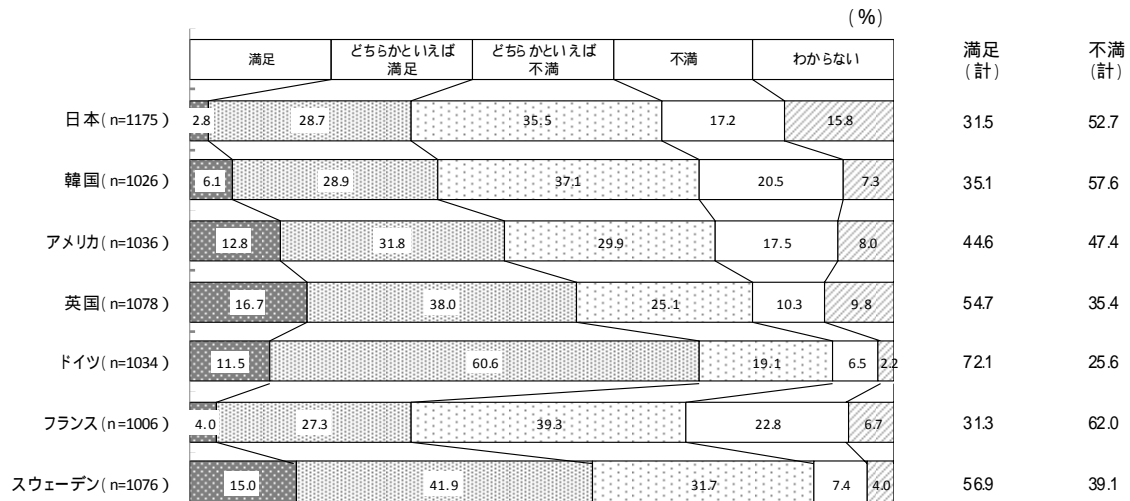
2 社会観

(1) 社会への満足度

Q28 あなたは、自国の社会に満足していますか、それとも不満ですか。(回答は1つ)

日本の若者に、自国の社会に対する満足度を聞いたところ、『満足』と回答したのは**31.5%**（「満足」**2.8%**＋「どちらかといえば満足」**28.7%**）である。

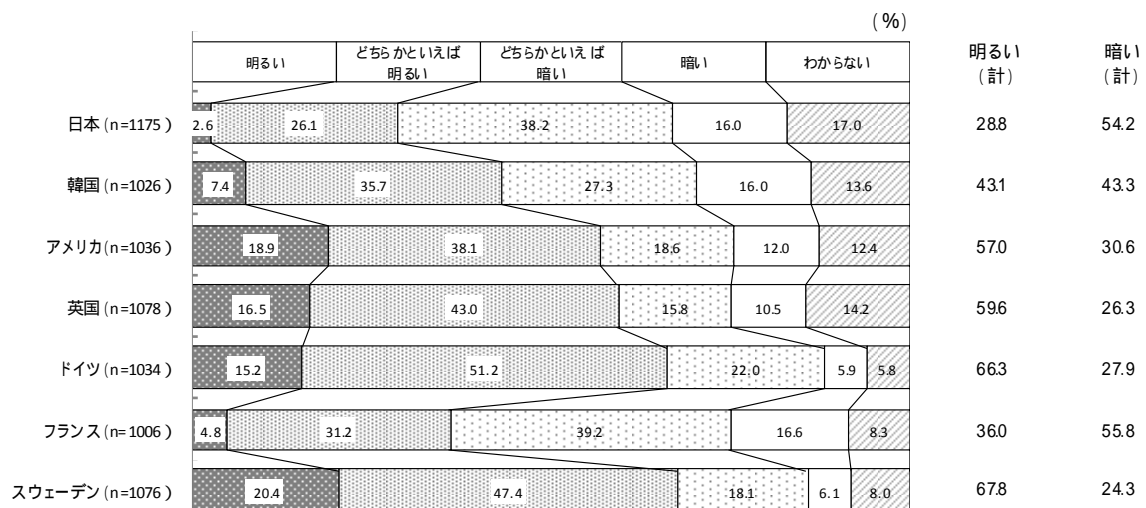
7か国比較で見ると、『満足』の割合が最も高いのはドイツ（**72.1%**）で、以下、スウェーデン（**56.9%**）、英国（**54.7%**）、アメリカ（**44.6%**）、韓国（**35.1%**）、フランス（**31.3%**）となっている。



Q29 自国の将来は明るいと思いますか。(回答は1つ)

自国の将来は『明るい』と考える日本の若者は、**28.8%**（「明るい」**2.6%**＋「どちらかといえば明るい」**26.1%**）にとどまっておき、『暗い』が過半数（「暗い」**16.0%**＋「どちらかといえば暗い」**38.2%**）を占めている。

7か国比較で見ると、『明るい』との回答割合が最も高いのはスウェーデン（**67.8%**）で、以下、ドイツ（**66.3%**）、英国（**59.6%**）、アメリカ（**57.0%**）、韓国（**43.1%**）、フランス（**36.0%**）の順である。



(2) 自国社会の問題

Q30 あなたは、どのようなことが自国の社会で問題だと思いますか。この中であてはまるものを、いくつでも選んでください。(回答はいくつでも) (回答は1つ)

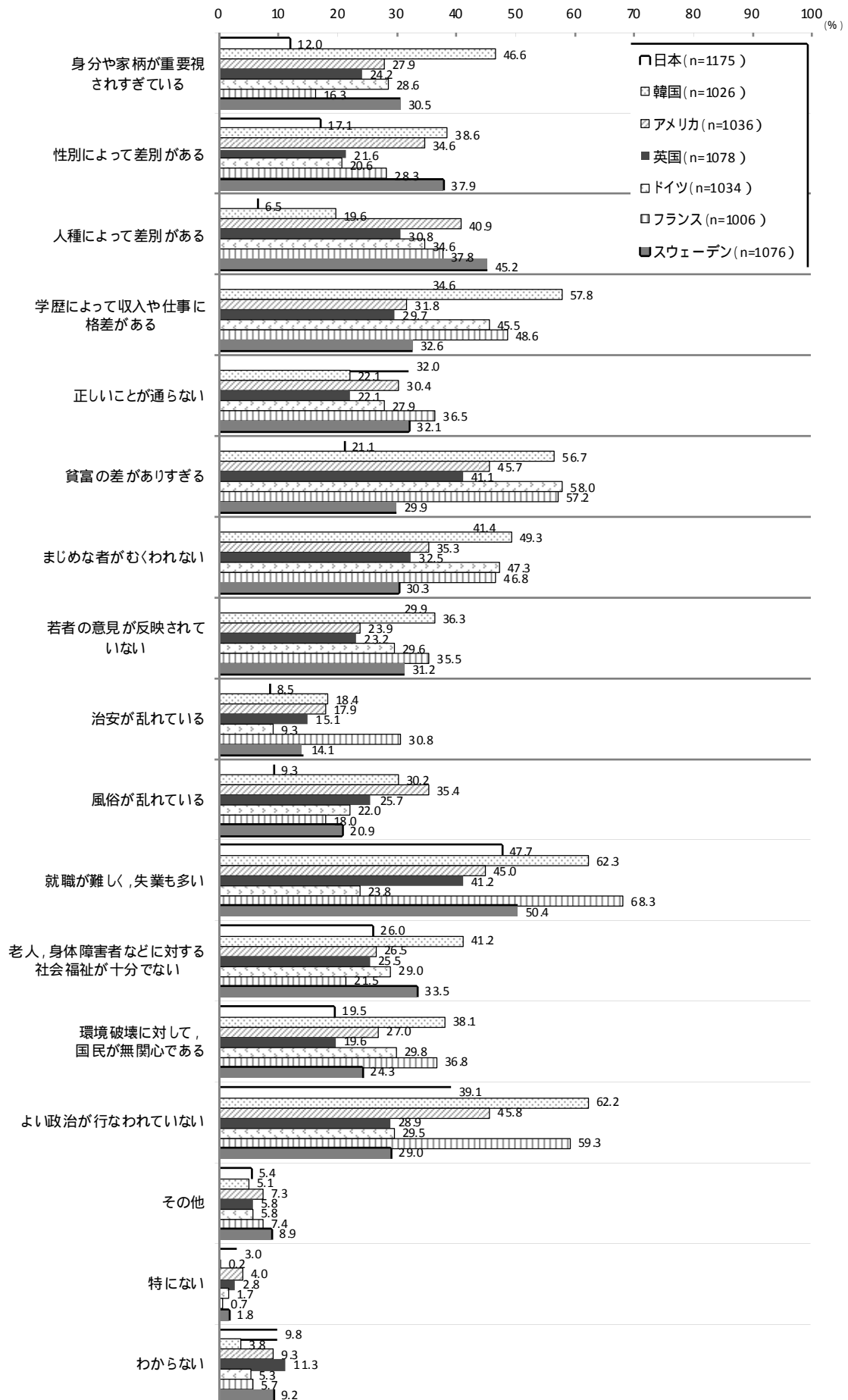
日本の若者に、自国社会の問題を聞いたところ、「就職が難しく、失業も多い」(47.7%)、「まじめな者がむくわれない」(41.4%)、「よい政治が行われていない」(39.1%)等の項目が上位にあげられている。

7か国比較で見ると、韓国とフランスでは「就職が難しく、失業も多い」(韓国 62.3%、フランス 68.3%)、「よい政治が行われていない」(韓国 62.2%、フランス 59.3%)、「学歴によって収入や仕事に格差がある」(韓国 57.8%、フランス 48.6%)、「貧富の差がありすぎる」(韓国 56.7%、フランス 57.2%)等が上位にあげられており、いずれも5～6割と非常に高い。

アメリカでも「よい政治が行われていない」(45.8%)、「貧富の差がありすぎる」(45.7%)、「就職が難しく、失業も多い」(45.0%)等、韓国とフランスと同様の項目が問題点とされている。

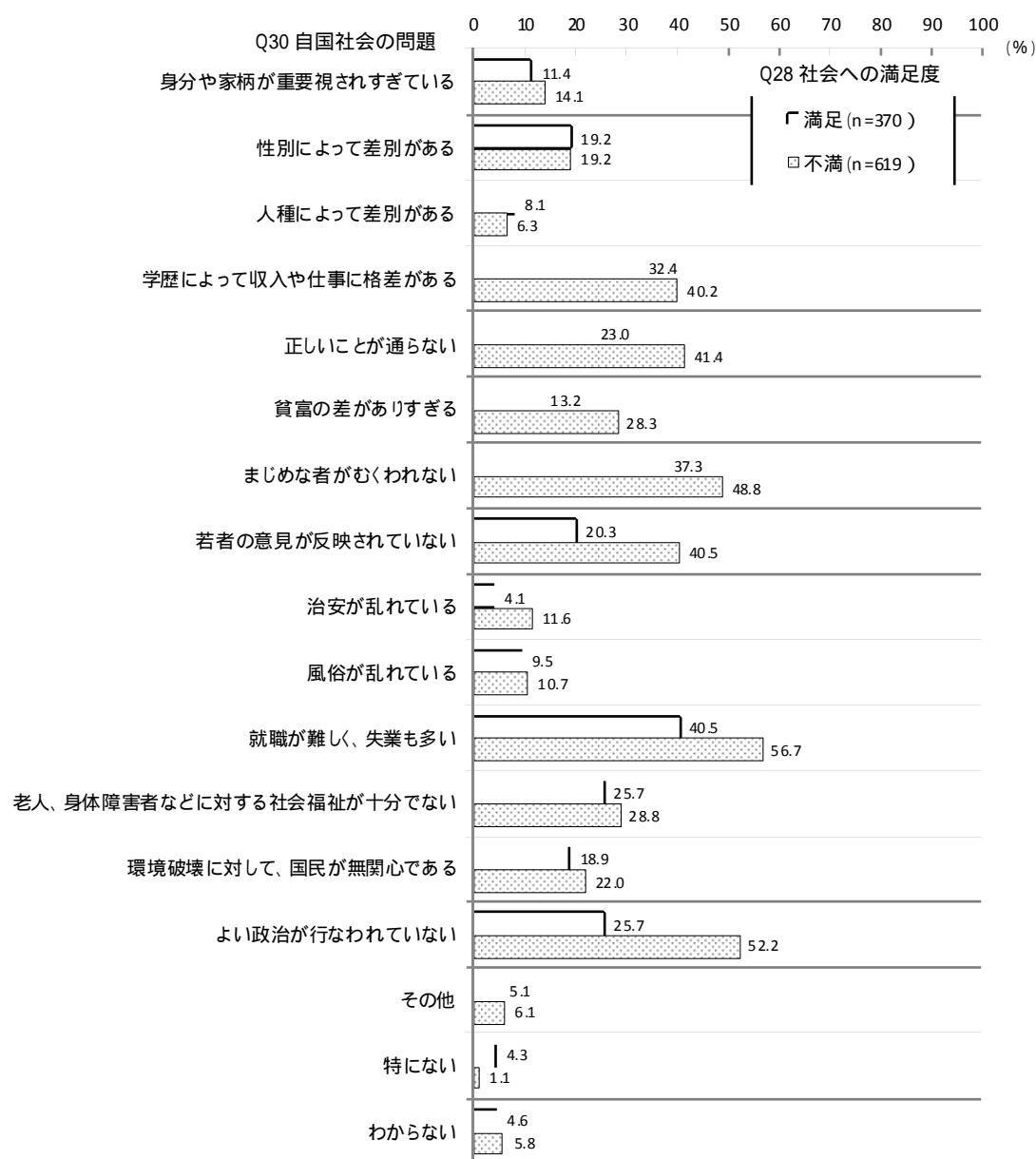
ドイツでは、「貧富の差がありすぎる」(58.0%)、「まじめな者がむくわれない」(47.3%)、スウェーデンでは「就職が難しく、失業も多い」(50.4%)、「人種によって差別がある」(45.2%)が上位にあげられている。

スウェーデンでは「人種によって差別がある」(アメリカ 40.9%、スウェーデン 45.2%)が他国に比べると高い割合となっている。



【分析】 社会への満足度別にみた『自国社会の問題』

『自国社会の問題』について、日本の若者の社会への満足度別にみたところ、『不満（「不満」＋「どちらかといえば不満」）』と考える若者は、「就職が難しく、失業も多い」（56.7%）や「よい政治が行われていない」（52.2%）をあげる割合が高い。次いで、「まじめな者がむくわれない」（48.8%），「正しいことが通らない」（41.4%），「若者の意見が反映されていない」（40.5%），「学歴によって収入や仕事に格差がある」（40.2%）があがり、これらをより強く感じていることがわかる。また、『満足』（「満足」＋「どちらかといえば満足」）と考える若者との差が大きい項目をあげると、「よい政治が行われていない」，「若者の意見が反映されていない」，「正しいことが通らない」，「就職が難しく、失業も多い」，「貧富の差がありすぎる」等となっている。

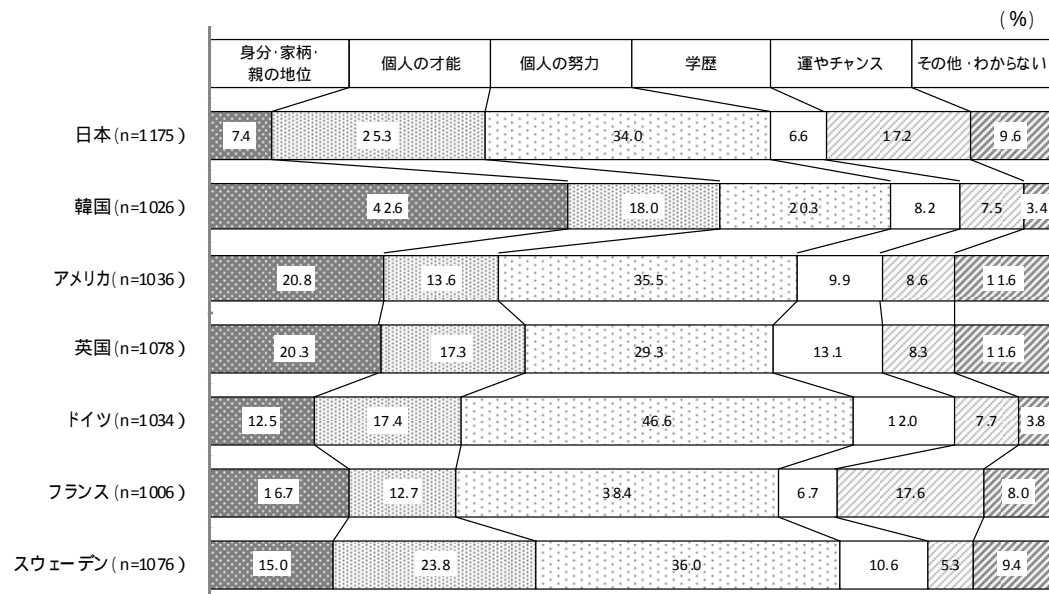


(3) 社会で成功する要因

Q31 あなたは、社会に出て成功するのに最も重要なものは何だと思いますか。この中から、1つ選んでください。(回答は1つ)

社会で成功するために重要なものを日本の若者に聞いたところ、「個人の努力」(34.0%)をあげる人が最も多く、次いで「個人の才能」(25.3%)、「運やチャンス」(17.2%)となっている。

7か国比較で見ると、韓国では「身分・家柄・親の地位」(42.6%)が4割を占め、他国に比べ非常に高い割合である。それ以外の6か国では、いずれも「個人の努力」が最も多く、特にドイツでは46.6%と半数近くを占める。



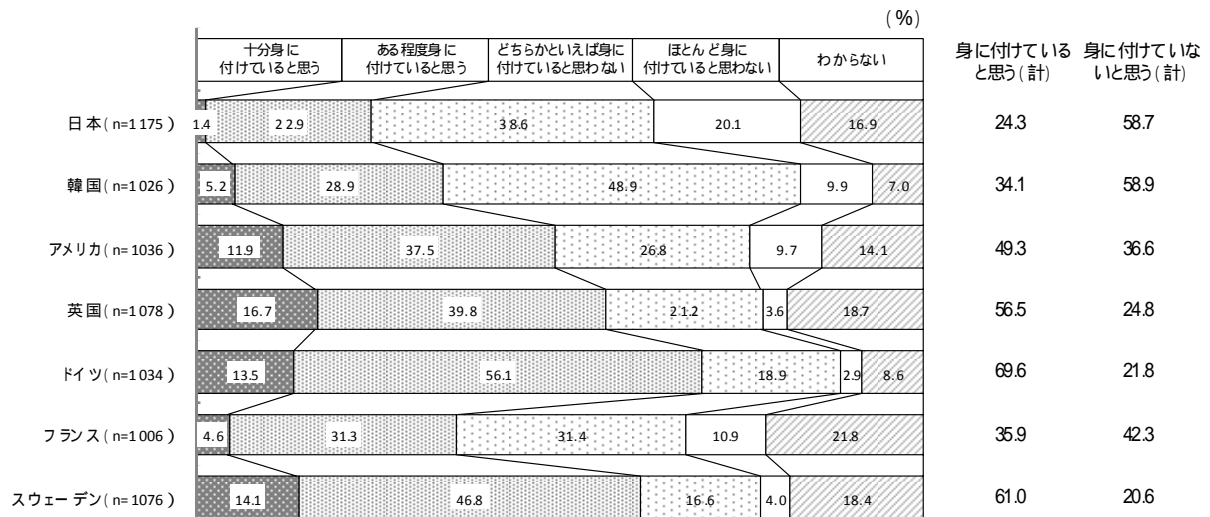
3 国際的な視野

(1) 自国人の国際的な視野

Q32 国際社会の一員としての役割を果たしていくために必要な「国際的な視野」(例えば、自国と他国の文化・歴史・社会を理解し、互いの生活・習慣・価値観などを尊重して、異なる文化の人々とともに生きていくことができる態度や能力)を、自国の国民はどの程度身に付けていると思いますか。この中から1つだけ選んでください。(回答は1つ)

日本の若者に国際的な視野について聞いたところ、『身に付けていると思う』と回答したのは**24.3%**(「十分身に付けていると思う」**1.4%**＋「ある程度身に付けていると思う」**22.9%**)にとどまっており、7か国中で最も低い割合である。

7か国比較で見ると、『身に付けていると思う』と回答した割合が最も高いのはドイツ(**69.6%**)で、以下、スウェーデン(**61.0%**)、英国(**56.5%**)、アメリカ(**49.3%**)、フランス(**35.9%**)、韓国(**34.1%**)の順となっている。



(2) 「国際的な視野」を身に付けるために必要な政策

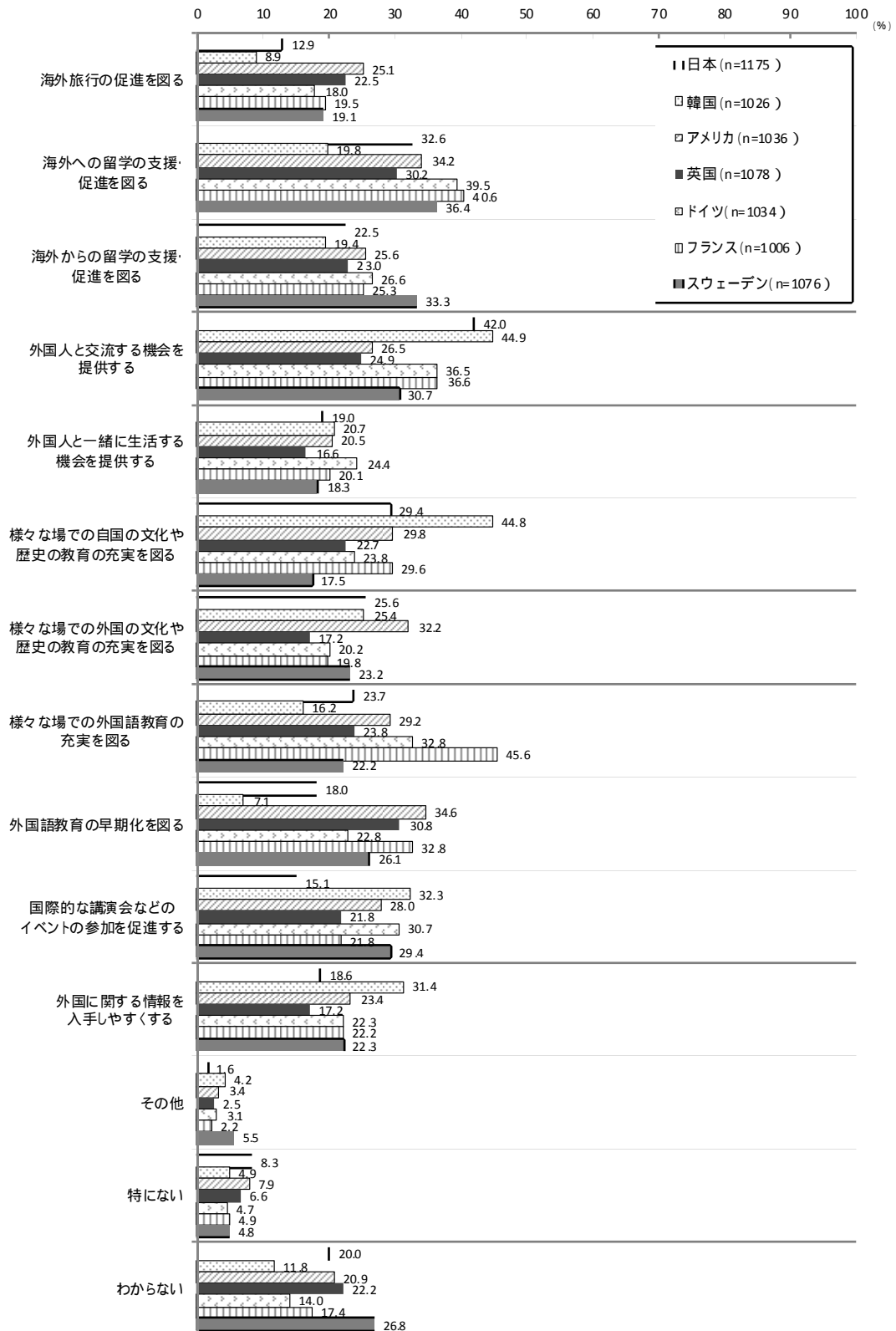
Q33 国民がさらに「国際的な視野」を身に付けていくには、どのような政策が必要だと考えますか。この中からあてはまるものをいくつでも選んでください。(回答はいくつでも)

日本の若者が考える「国際的な視野を身に付けていくために必要な政策」は、「外国人と交流する機会を提供する」(**42.0%**)、「海外への留学の支援・促進を図る」(**32.6%**)、「様々な場での外国の文化や歴史の教育の充実を図る」(**29.4%**)が上位にあげられている。

7か国比較で見ると、韓国は日本と同様、「外国人と交流する機会を提供する」(**44.9%**)、「様々な場での外国の文化や歴史の教育の充実を図る」(**44.8%**)が上位である。

アメリカと英国では「外国語教育の早期化を図る」(アメリカ**34.6%**、英国**30.8%**)、ドイツとスウェーデンでは「海外への留学の支援・促進を図る」(ドイツ**39.5%**、スウェーデン

ン 36.4%)、フランスでは「様々な場での外国の文化や歴史の教育の充実を図る」(45.6%)
 が、それぞれ必要な政策としてあげられている。



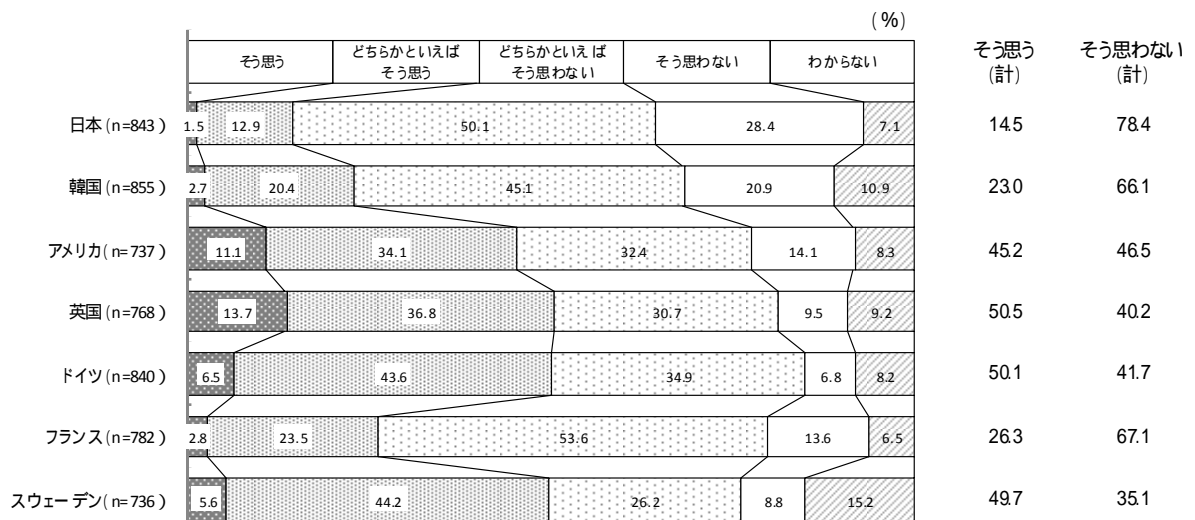
Q 34 あなたは、Q 33 で選択した取組が、あなたの国には充実していると思いますか。

(回答は1つ)

※ Q 33 で「特にない」「わからない」以外を回答した人が対象

「国際的な視野を身に付けていくために必要な政策」が充実しているかどうか、日本の若者に聞いたところ、『そう思う』は 14.5%（「そう思う」 1.5%+「どちらかといえばそう思う」 12.9%）にとどまっております、7か国中最も低い。

7か国比較で見ると、『そう思う』の割合が最も高いのは英国（50.5%）で、以下、ドイツ（50.1%）、スウェーデン（49.7%）、アメリカ（45.2%）、フランス（26.3%）、韓国（23.0%）の順となっている。



4 日本人について

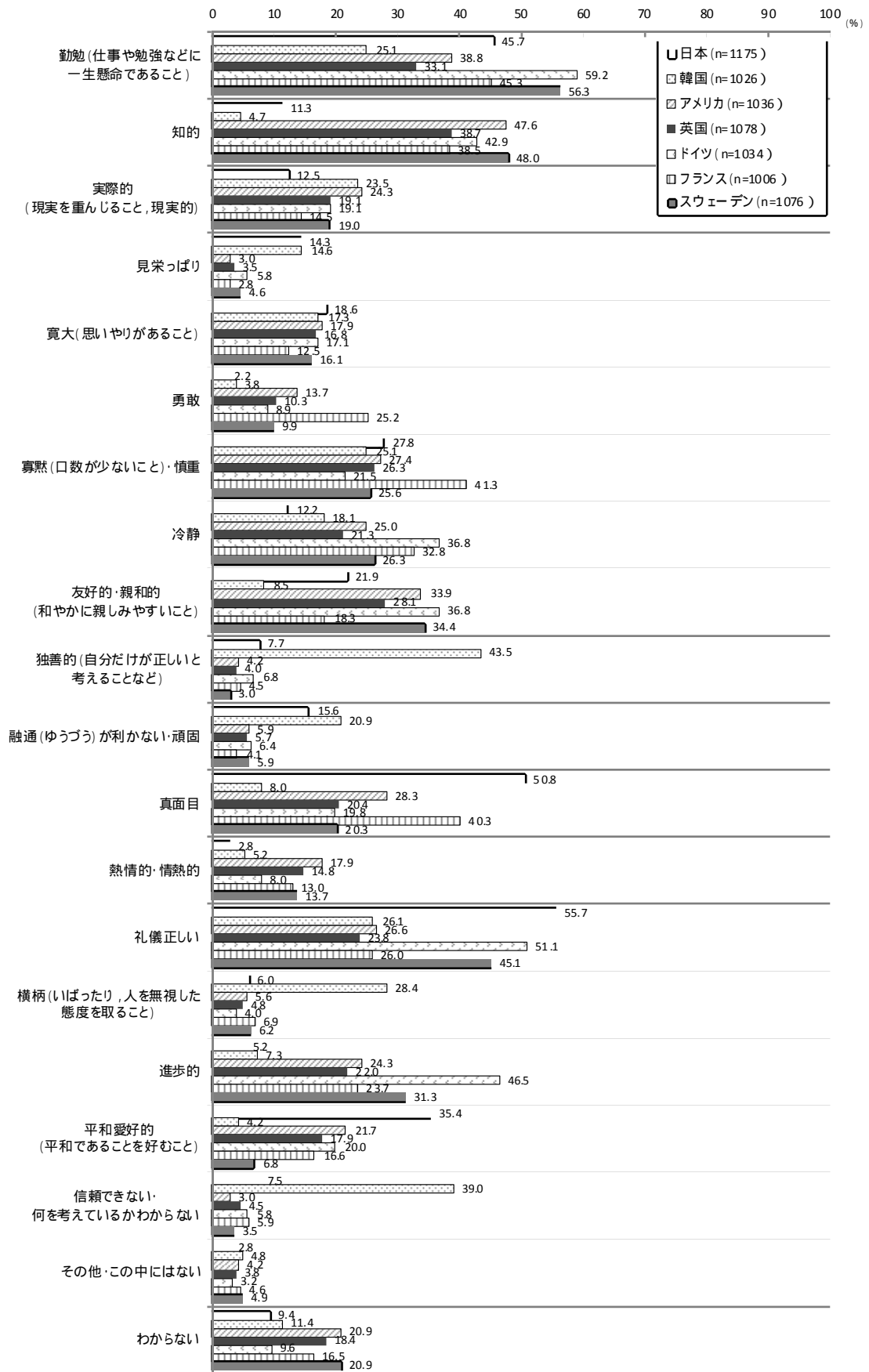
(1) 日本人についてのイメージ

Q 35 あなたは、日本人についてどう思いますか。この中であてはまる言葉がありましたら、いくつでも選んでください。(回答はいくつでも)

日本人のイメージを日本の若者に聞いたところ、「礼儀正しい」(55.7%)と回答した人が最も多く、次いで「真面目」(50.8%)、「勤勉(仕事や勉強などに一生懸命であること)」(45.7%)の順である。

7か国比較で見ると、アメリカや英国では「知的」(アメリカ 47.6%、英国 38.7%)、「勤勉(仕事や勉強などに一生懸命であること)」(アメリカ 38.8%、英国 33.1%)等が高い割合となっている。「勤勉(仕事や勉強などに一生懸命であること)」というイメージは、ドイツ(59.2%)、スウェーデン(56.3%)、フランス(45.3%)の3か国でも最も上位にあげられている。

韓国では、「独善的(自分だけが正しいと考えることなど)」(43.5%)、「信頼できない・何を考えているかわからない」(39.0%)、「横柄(いばったり、人を無視した態度を取ること)」(28.4%)等のネガティブなイメージが強い。



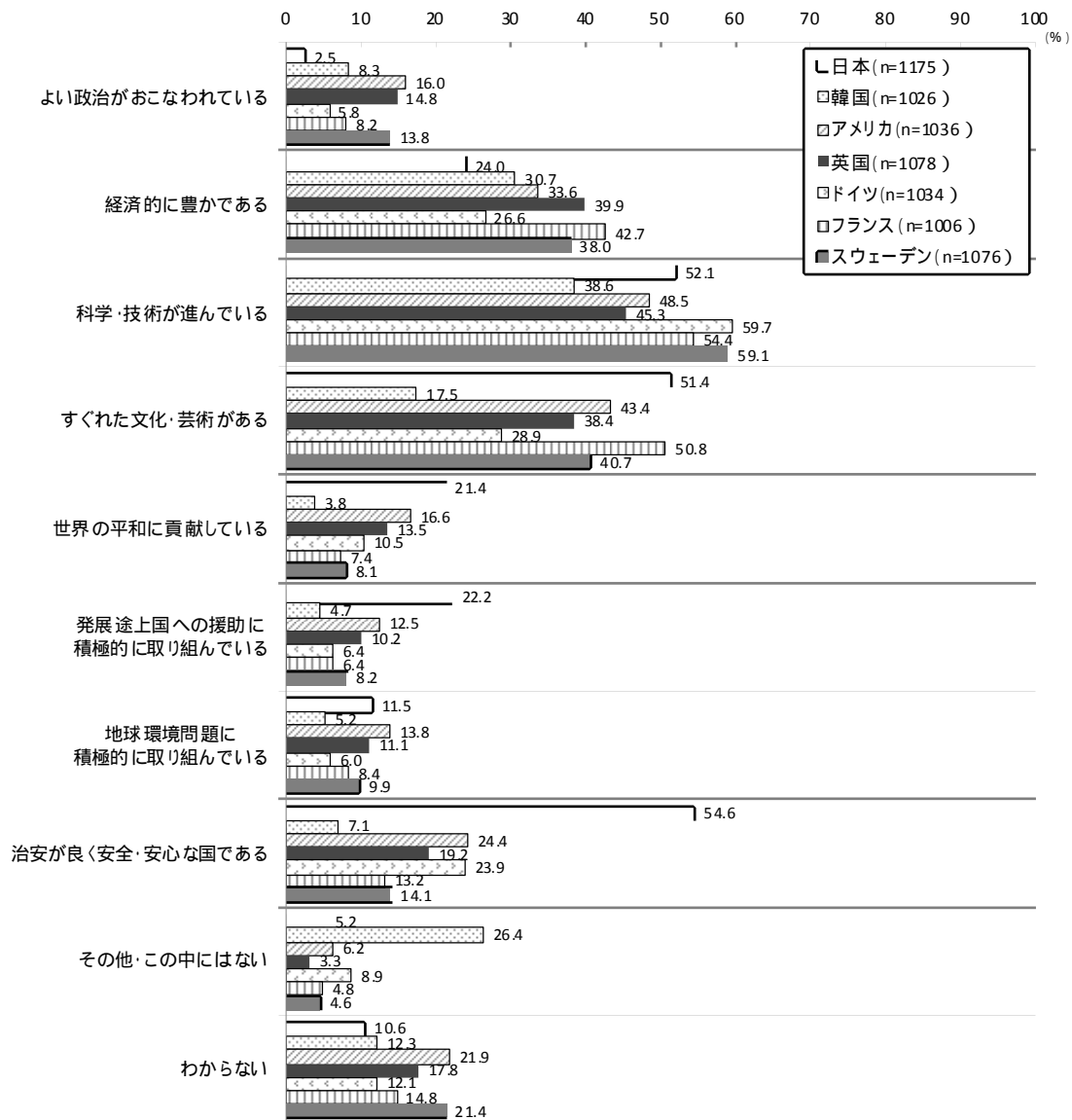
(2) 日本についてのイメージ

Q36 あなたは、日本についてどう思いますか。この中からいくつでも選んでください。
(回答はいくつでも)

日本のイメージを日本の若者に聞いたところ、「治安が良く安全・安心な国である」(54.6%)の割合が最も高く、「科学・技術が進んでいる」(52.1%),「すぐれた文化・芸術がある」(51.4%)の3項目で半数を超える割合となっている。

7か国比較で見ると、いずれの国でも「科学・技術が進んでいる」を最上位にあげている(ドイツ 59.7%, スウェーデン 59.1%, フランス 54.4%, アメリカ 48.5%, ドイツ 45.3%, 韓国 38.6%)。また、「すぐれた文化・芸術がある」、「経済的に豊かである」をあげる割合も高い。

なお、韓国では「その他・この中にはない」(26.4%)が約4分の1を占めている。



第3章 地域社会・ボランティア関係

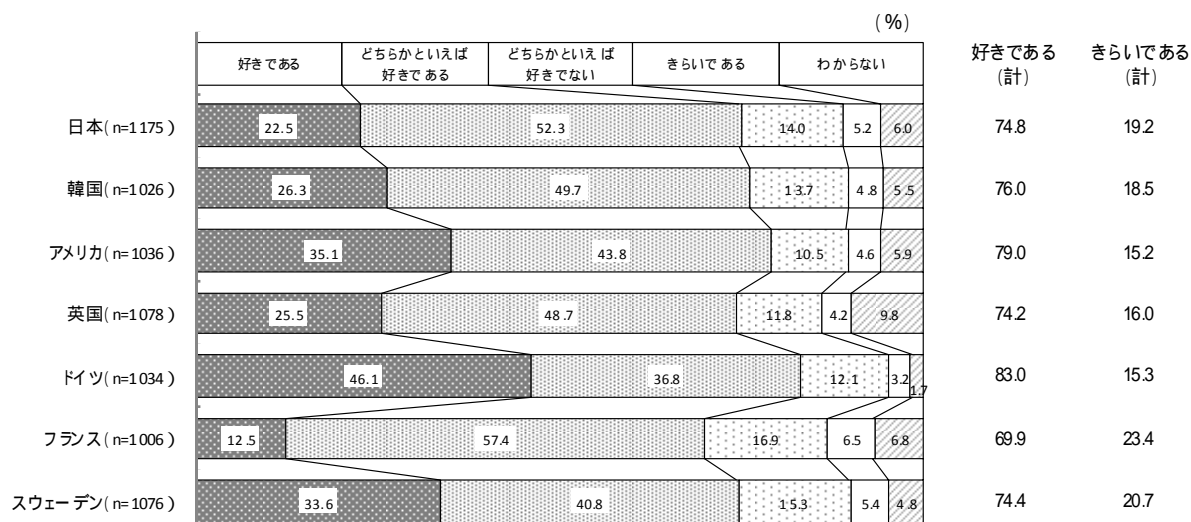
1 地域社会

(1) 地域社会の愛着度

Q37 あなたは、あなたの今住んでいる地域（市町村）が好きですか。（回答は1つ）

日本の若者に今住んでいる地域（市町村）が好きかを聞いたところ、『好き』が **74.8%**（「好きである」**22.5%**＋「どちらかといえば好きである」**52.3%**）である。

7か国比較で見ると、今住んでいる地域（市町村）が『好き』と回答した人の割合は、ドイツ（**83.0%**）が8割台で最も高く、以下アメリカ（**79.0%**）、韓国（**76.0%**）、日本（**74.8%**）、スウェーデン（**74.4%**）、英国（**74.2%**）、フランス（**69.9%**）の順となっている。

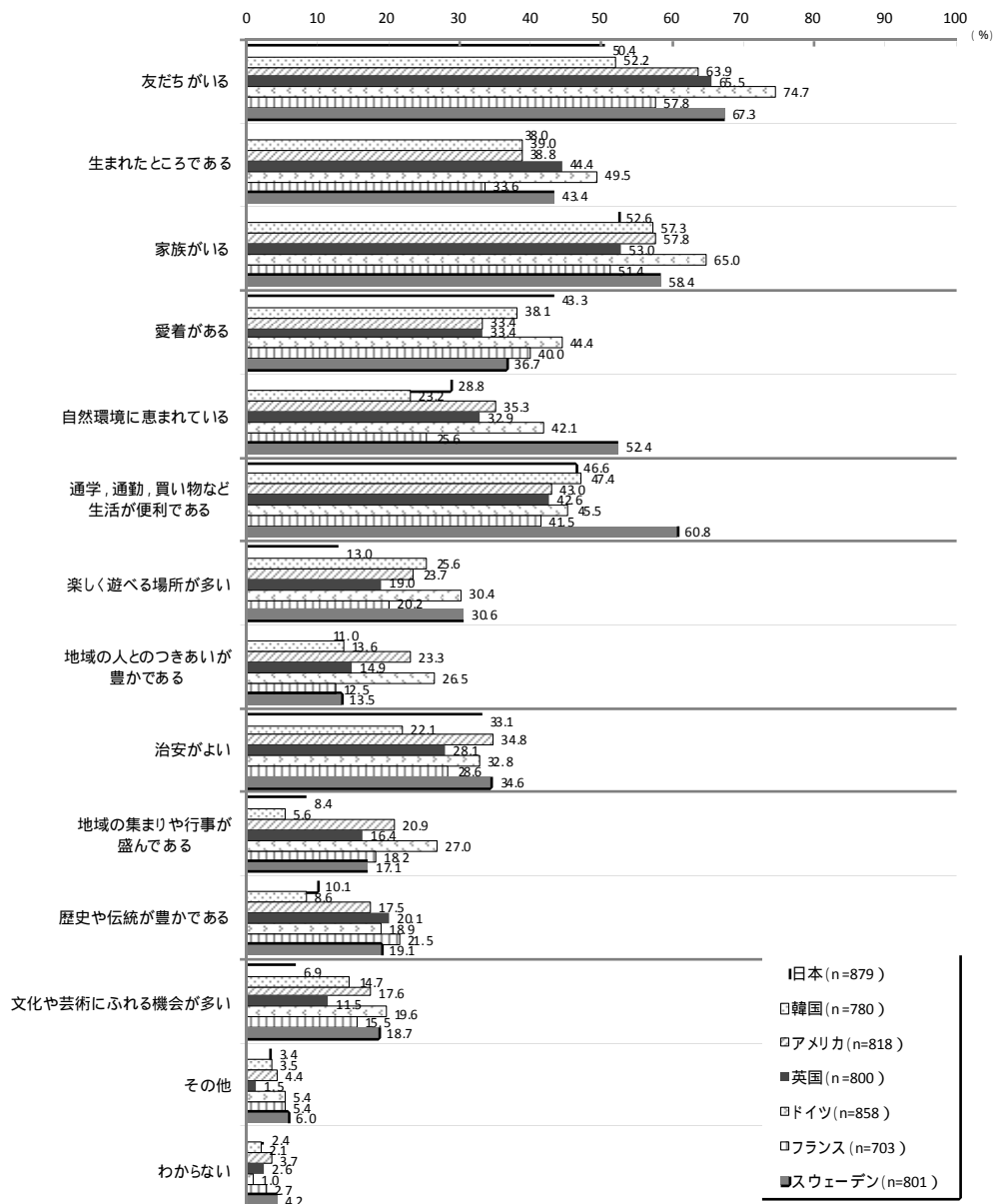


(2) 住んでいる地域が好きな理由

Q38 あなたが今住んでいる地域（市町村）が「好き」または「どちらかといえば好き」な理由を、この中からいくつでも選んでください。（回答はいくつでも）
 ※Q37で「好きである」「どちらかといえば好きである」と回答した人が対象

日本の若者が住んでいる地域を好きな理由としては、「家族がいる」が**52.6%**で最も高く、以下「友だちがいる」(**50.4%**)、「通学、通勤、買い物など生活が便利である」(**46.6%**)、「愛着がある」(**43.3%**)、「生まれたところである」(**38.0%**)の順となっている。

7か国比較で見ると、日本と同様に韓国でも「家族がいる」(**57.3%**)が最も高い。他の5か国では、「友だちがいる」(アメリカ**63.9%**、英国**65.5%**、ドイツ**74.7%**、フランス**57.8%**、スウェーデン**67.3%**)が最も高い。



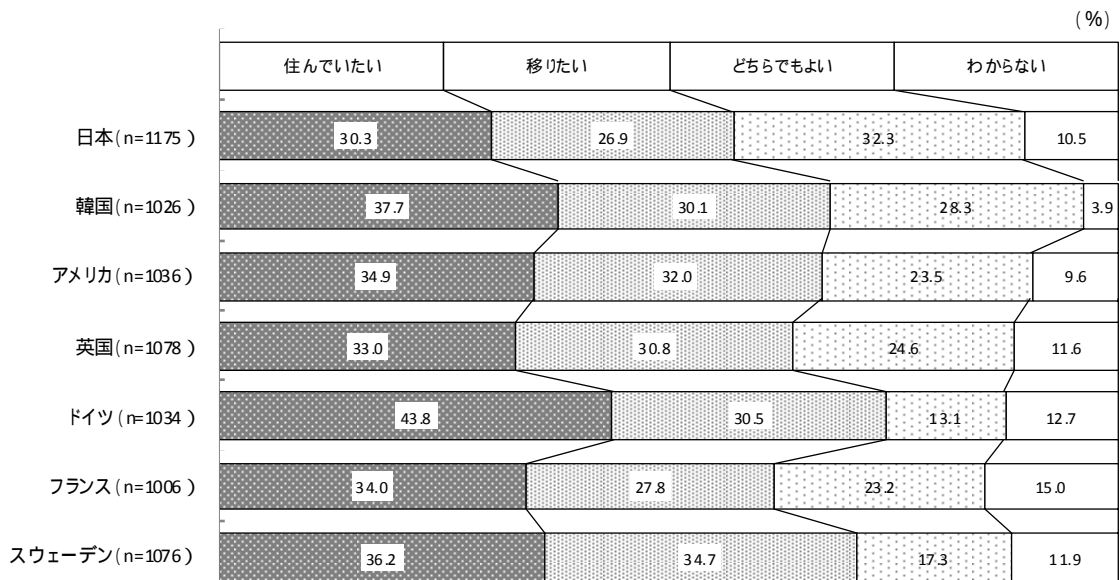
(3) 地域への永住意識

Q39 あなたは、将来もずっと今の地域（市町村）に住んでいたいと思いますか。「住んでいたい」「移りたい」「どちらでもよい」のうちではどちらですか。（回答は1つ）

日本の若者に将来もずっと今の地域（市町村）に住んでいたいかを聞いたところ、「どちらでもよい」（**32.3%**）が最も高く、「住んでいたい」は **30.3%**で、「移りたい」（**26.9%**）を数ポイント上回る程度となっている。

7か国比較で見ると、「住んでいたい」と回答した者の割合は、ドイツが **43.8%**で最も高く、韓国（**37.7%**）、スウェーデン（**36.2%**）、アメリカ（**34.9%**）、フランス（**34.0%**）、英国（**33.0%**）、日本（**30.3%**）の順となっている。

一方、スウェーデンでは、「移りたい」と回答した者の割合が **34.7%**と、7か国中で最も高くなっている。



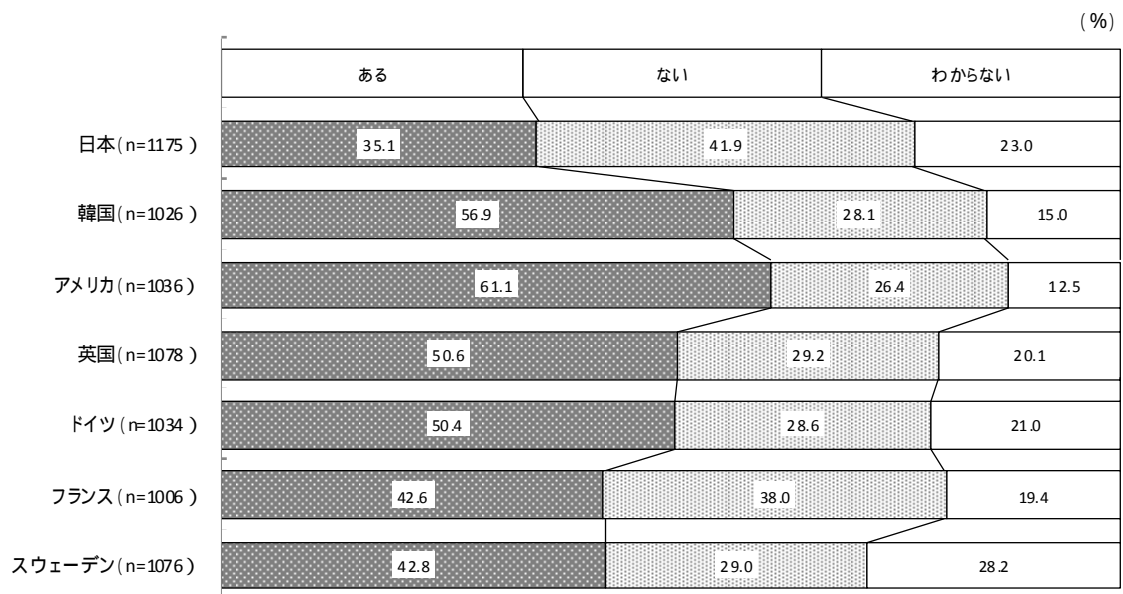
2 ボランティア

(1) ボランティアに対する興味

Q 40 あなたはボランティア活動に興味がありますか。(回答は1つ)

日本の若者にボランティア活動に対する興味を聞いたところ、興味が「ある」は **35.1%** で、「ない」(**41.9%**)を約7ポイント下回っている。

7か国比較で見ると、興味が「ある」と回答した人の割合は、アメリカ(**61.1%**)が最も高く、韓国(**56.9%**)、英国(**50.6%**)、ドイツ(**50.4%**)、スウェーデン(**42.8%**)、フランス(**42.6%**)、日本(**35.1%**)の順となっている。



(2) ボランティア活動に興味がある理由

Q41 あなたがボランティア活動に興味がある理由が「ある」のは、どのような気持ちからですか。この中からいくつでも選んでください。(回答はいくつでも)
 ※Q40で「興味がある」と回答した人が対象

日本の若者がボランティア活動に興味がある理由としては、「困っている人の手助けをしたい」が**65.4%**で最も高く、以下「いろいろな人と出会いたい」(**49.6%**)、「地域や社会をよりよくしたい」(**48.4%**)、「新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりしたい」(**37.3%**)、「自分のやりたいことを発見したい」(**34.6%**)の順となっている。

7か国比較で見ると、日本と同様に他の4か国でも「困っている人の手助けをしたい」(韓国**70.9%**、アメリカ**75.8%**、英国**66.3%**、フランス**70.6%**)が最も高い。一方、「新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりしたい」が最も高いのは、ドイツ(**56.6%**)及びスウェーデン(**64.6%**)である。

